平成 28 年度

高崎健康福祉大学大学院
健康福祉学研究科

講義概要

（修士課程・博士前期課程）

高崎健康福祉大学
Takasaki University of Health and Welfare

目次

基礎医学特論　Basic Medicine 1
臨床医学特論　Fundamental Clinical Medicine 2
医療情報学特論　Medical Informatics 3
医療情報学特論演習　Medical Informatics Practice 4
質的/量的研究特論　Qualitative research and Quantitative research 5
社会福祉研究方法論　Research Methods of Social Welfare 6
国際保健学特論　International Health Sciences 7
医療倫理特論　Medical Ethics 8
病院経営特論　Theory of Hospital Management 9
医療経済学特論　Health Economics 10
生体画像情報学特論　Biological imaging and information Science 11
健康情報学特論演習　Health Informatics 12
画像処理特論演習　Image Processing & Pattern Recognition 13
医用工学特論　Biomedical Engineering 14
情報システム構築特論演習　Information System Construction Methodology 15
データ工学特論　Data Engineering 16
医療福祉情報学特別研究　Healthcare Informatics Research 17
質的/量的研究総論　Qualitative research and Quantitative research 18
社会福祉研究方法論　Research Methods of Social Welfare 19
保健福祉調査特論　Basic Research Methods in Health and Welfare Sciences 20
精神神経医学特論　Neuropsychiatry research 21
家族社会学特論　Research of Family Sociology 22
子育て支援特論Ⅰ　Child Care Support (Mastered) I 23
子育て支援特論Ⅱ　Child Care Support (Mastered) II 24
精神保健特論　Mental Health 25
トラウマの理解と支援特論　Traumatic stress 26
食とメンタルヘルス特論　Mental health and eating attitudes 27
地域福祉特論　Community Care System 28
高齢者保健福祉特論　Health and Welfare for older adults 29
教育・福祉紛争解決特論　Resolution of Education/Welfare Disputes 30
発達障害の脳科学と支援特論　Neuroscience of developmental disorders towards improvements of their support 31
特別支援教育学特論　Study of Education for the Children with Special Needs 32
福祉人材育成特論　Human Resource Development for a Person Engaged in Social Welfare Service 33
保健福祉学特別研究　Seminar for Master's Thesis on Health and Welfare Sciences 34
食品栄養学特論 Advanced Food and Nutrition Science 35
食品学特論　Advanced Food Chemistry 36
応用食品学特論　Applied food science 37
食品安全学特論　Advanced Food Safety 38
調理機能学特論　Functional cookery science advanced lecture 39
栄養学特論　Advanced nutrition 40
分子生物学特論　Special Seminar for Molecular biology 41
栄養生化学特論　Advanced Nutrition Biochemistry 42
臨床栄養学特論　Clinical Nutrition 43
栄養教育学特論　Nutrition Education 44

保健情報学特論　Health Informatics....45
栄養生理学特論　Advanced Course on Nutritional Physiology....46
応用栄養学特論　Applied Nutrition....47
食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ....48
食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ....49
食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ....50
食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅱ....51
食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅱ....52
食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅱ....53
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....54
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....55
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....56
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....57
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....58
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....59
栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ....60
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....61
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....62
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....63
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....64
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....65
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....66
栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II....67
食品栄養学特別研究　Seminar for Master's Thesis on Food and Nutrition Sciences....68

基礎医学特論　Basic Medicine

担当者	小澤　静司
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　必修　2 単位

講義目標

人体の構造と機能に関する知識を深め、それらの異常がどのようなメカニズムにより病気を引き起こすかを最新の知見に基づき、論理的に説明できる能力を養うこと、及びそれに必要な情報を得るために医学英語と英語医学情報データベースの活用法を学ぶ。

到達目標

多様な疾患の成因を人体の構造と機能の異常として論理的に説明することができる。また、そのために必要な最新の情報を取得するための英語データベースの利用法に習熟する。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクションー到達目標、授業の進め方、評価法の確認ー
第 2 回　英語医学情報データベース Medlineplus の紹介
第 3 回　Medlineplus の利用法（1）医学用語解説 part 1
第 4 回　Medlineplus の利用法（2）医学用語解説 part 2
第 5 回　Medlineplus の利用法（3）人体解剖・生理関連ビデオ
第 6 回　循環器疾患の病態生理、診断、治療（1）
第 7 回　循環器疾患の病態生理、診断、治療（2）
第 8 回　循環器疾患の病態生理、診断、治療（3）
第 9 回　循環器疾患の病態生理、診断、治療（4）
第 10 回　内分泌代謝疾患の病態生理、診断、治療（1）
第 11 回　内分泌代謝疾患の病態生理、診断、治療（2）
第 12 回　精神・神経疾患の病態生理、診断、治療（1）
第 13 回　精神・神経疾患の病態生理、診断、治療（2）
第 14 回　精神・神経疾患の病態生理、診断、治療（3）
第 15 回　まとめ

使用教材

参考図書及び資料
1) カラーで学ぶ解剖生理学 G. A. Thibodeau et al. コメディカルサポート研究会訳、医学書院、東京、2007.
2) http://www.nlm.nih.gov/medlineplus

評価方法

6 回目から 14 回目の授業で、授業内容に関連する最新の知見を調査して口頭発表を行うことを課する。それらの発表の質を 5 点満点で評価する。また、最終レポートで英語データベースの使用法の習熟度を 5 点満点で評価し、それらの合計が 6 点以上の場合を合格とする。

授業外学習の内容

各授業の終了時に、次回の講義内容に関連する重要事項を提示するので、それらについて十分理解し、プレゼンテーションが出来るように準備して授業に臨むこと。

臨床医学特論　Fundamental Clinical Medicine

担当者	伊関　洋
時期・単位	医療福祉情報学専攻　2 年前期　必修　2 単位

講義目標

医療関連の必修専門科目として修士課程１年次には基礎医学を学んだが、２年次には臨床医学とは何かを学ぶ。具体的に臨床現場での事例を挙げながら、患者さんとのインターフェースに視点を置いて臨床医学のあるべき姿について討議する。また、この分野における情報ツールの活用方法についても理解を深め、医療情報の専門家としてのスキルアップを図る。

到達目標

修士論文の指導による、完成までのマイルストーン・方向性の確認。医療機器の研究開発の現状と手法の理解。

講義内容と講義計画

第 1 回　医学概論コンピュータ外科（1）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理と次週の課題の確認
第 2 回　医学概論コンピュータ外科（2）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理と次週の課題の確認
第 3 回　医学概論コンピュータ外科（3）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理と次週の課題の確認
第 4 回　医学概論医療機器開発と薬事法（1）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 5 回　医学概論医療機器開発と薬事法（2）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 6 回　医学概論医療機器開発と薬事法（3）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 7 回　医学概論レギュラトリーサイエンスとリスク管理（1）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 8 回　医学概論レギュラトリーサイエンスとリスク管理（2）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 9 回　医学概論レギュラトリーサイエンスとリスク管理（3）Free mind map を使用し、修士論文の概要整理、前週までの進捗確認と次週の課題の確認
第 10 回　Free mind map を使用し、修士論文の概要整理とマイルストーンの確認（1）
第 11 回　Free mind map を使用し、修士論文の概要整理とマイルストーンの確認（2）
第 12 回　Free mind map を使用し、修士論文の概要整理とマイルストーンの確認（3）
第 13 回　課外学習（TWIns）　施設見学と医療機器の研究開発についての理解と討論（1）
第 14 回　課外学習（TWIns）　施設見学と医療機器の研究開発についての理解と討論（2）
第 15 回　課外学習（TWIns）　施設見学と医療機器の研究開発についての理解と討論（3）

使用教材

講師作成の ppt ファイルおよびプリントが中心となる。

評価方法

レポートを課し、その内容を評価し成績をつける。

授業外学習の内容

東京女子医大と早稲田大学による医工融合研究教育拠点である「東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設」(TWIns)の、研究施設の見学、インテリジェント動物治療室の見学、ガンマナイフ治療室の見学。これの研究施設での研究内容について概説し医療機器開発について討論をする。

医療情報学特論　Medical Informatics

担当者	長澤　亨
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　必修　2 単位

講義目標

現在、電子カルテの導入、遠隔医療など医療環境は大きく変化している。さまざまな検査技術を習得することも大切であるが、それらの技術から提供される医療情報の活用や管理がより一層重要になってきている。そのため、医療の特質をふまえて、最適な情報処理技術にもとづき、医療情報を安全かつ有効に活用、提供することができる知識、技術および資質を有する医療関係者の育成が急務となっている。特論では、医療情報学において対象とする医療情報を定量的に解析する際に必要となる多変量解析を講義から理論を理解し、医療情報活用の基礎学力を養成することを目的とする。

到達目標

医療情報の特性を理解し、その有効活用するために必要なデータ解析手法を身につける。まず、データ解析に先立ってデータのクレンジング処理の手法や外れ値処理の方法が説明できること。重回帰分析、正準判別分析、主成分分析など各多変量解析手法の理論を理解し簡潔に説明でき、目的に応じた多変量解析手法が選択できることを到達目標とする。

講義内容と講義計画

講義は後期の演習に繋ぐことを念頭に進める予定である。
第 1 回　前期講義計画と多変量解析の準備、説明に利用する数学（偏微分、ラグランジュ未定乗数法、行列、固有値など）
第 2 回　多変量解析とは、資料の前処理、データの標準化、２変量の関係
第 3 回　正規性と平均値に関する推測、実験計画法、多重比較
第 4 回　薬効検定、分割表分析、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定
第 5 回　重回帰分析、回帰方程式でデータを予測
第 6 回　主成分分析、データの見晴らしを良くする
第 7 回　クラスター分析、類似性を定量的・視覚的に把握する
第 8 回　因子分析、単純な因子で複雑な資料を掴む
第 9 回　正準判別分析、変量群の関係を探る
第 10 回　判別分析、データをグループ分けする
第 11 回　時系列解析
第 12 回～第 14 回　数量化分析Ⅰ～Ⅳ類
第 15 回　まとめ

使用教材

参考図書は紹介する。レクチャーに使用する資料は随時配布する。

評価方法

講義は理論的な解説と対話、発表形式となるため、対話や発表内容を重視する（50%）、課題レポート（50%）で評価する。

授業外学習の内容

各授業に先だって次回の授業で取り扱う多変量解析手法について調べ、まず自分の力で理論の理解に努め、理解できている点を解説できるようにしておくこと。また講義後、知識の定着をより深いものにするために、理論展開を自分なりに資料で確認し、演習問題などを解き、知識の定着を図る。

医療情報学特論演習　Medical Informatics Practice

担当者	長澤　亨
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　必修　2 単位

講義目標

本特論演習では、前期の特論の学習内容を定着するために、医療データの多変量解析を実際のデータを使って演習を行い、医療データの有効活用のための基礎力を涵養することを目的とする。

到達目標

前期に履修した医療情報の特性や多変量解析の理論を踏まえて、実際の医療データ解析を行い理論のより深く理解する。特に、データによる適切なクレンジング処理ができること、目的に応じて適切な多変量解析方法を選択できること、さらに解析結果を解釈できることなどを到達目標とする。

講義内容と講義計画

実際のデータを使って演習を進め、必要であれば理論的な説明を加える。
第 1 回　後期講義計画と多変量解析の演習を行うためのツール、ＳＰＳＳとＲに関する準備
第 2 回　データのクレンジング処理、データの標準化、２変量の関係、各種グラフの活用、分割表分析
第 3 回　平均値の差の検定、分散分析
第 4 回　分散分析、多重比較
第 5 回　パラメトリック検定とノンパラメトリック検定
第 6 回　多変量解析の理論展開に必要となる線形代数
第 7 回　重回帰分析
第 8 回　主成分分析と因子分析
第 9 回　正準相関分析
第 10 回　判別分析、クラスター分析
第 11 回　時系列解析と生存率分析、COX ハザードモデル、生存率の検定
第 12 回　数量解分析Ⅰ類
第 13 回　数量化分析Ⅱ類
第 14 回　数量化分析Ⅲ・Ⅳ類
第 15 回　多次元尺度構成法

使用教材

参考図書は紹介する。レクチャーに使用する資料は随時配布する。

評価方法

本演習は実データの処理とその解釈など対話、発表形式で行うため、対話や発表内容を重視する（50%）、課題レポート（50%）で評価する。

授業外学習の内容

次回演習する多変量解析内容を前期のノートや資料などにより予習しておくこと。また、演習後に出される課題レポート作成を通して多変量解析の内容をより深く理解する。不明な点はそのままにせず、次回の講義等で質問し確かな知識とすること。

質的/量的研究特論　Qualitative research and Quantitative research

担当者	安達　正嗣・上原　徹
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

保健福祉学における調査研究の主たる二つの方法である質的研究と量的研究について講義を行う。質的研究は、比較的に数の少ないデータについて「語りの中にある共通要素」という意味内容を把握するために行われる。内容分析、グラウンデッドセオリー、エスノグラフィーなどの方法で記述データを扱うことが多い。量的研究は、数の多いデータを標準化された尺度で数量化し平均値比較や相関を探索する研究である。学生が、研究の基礎になる二つの方法論について十分理解できること。

到達目標

学生が、用いる予定の研究方法について、質的研究が適応なのか、量的研究が適応なのかを考えることができ、実現可能な研究方法を一人で計画できるようになること。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究の発生と歴史
第 2 回　どのような研究方法が世界にはあるか
第 3 回　保健福祉学領域における研究方法概説
第 4 回　研究計画前の準備方法（文献探索、メディアリテラシーについて）
第 5 回　量的研究方法の概説
第 6 回　保健福祉学領域における量的研究論文を読む
第 7 回　量的研究に必要な尺度の作成
第 8 回　介入研究について
第 9 回　検定作業
第 10 回　多変量解析について
第 11 回　質的研究方法の概説
第 12 回　保健福祉学領域における質的研究論文を読む
第 13 回　語りと記述から共通の意味を紡ぎ上げる
第 14 回　グランデットセオリー、質的帰納的研究
第 15 回　まとめと意見交換

使用教材

第 1 回の時に、学生のテーマに合わせて、教科書を選択。講師からの配布資料

評価方法

授業態度や習得できた知識の深度

授業外学習の内容

講義前には、担当に該当する教科書の内容を読んでおくこと。講義の後に「関連文献」や「関連書籍」を伝えるので、それを読み関心を高めること。なお質的研究を安達、量的研究を上原が、主に担当する予定。

社会福祉研究方法論　Research Methods of Social Welfare

担当者	安達　正嗣
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

福祉およびその関連領域における研究法について、教科書および既存論文・報告書などを通して幅広く学び、論文作成に役立てる。

到達目標

自立した研究者として、社会福祉研究に関する方法論を理解して身につける。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学問の一分野としての社会福祉研究
第 3 回　現場の視点と研究の視点
第 4 回　研究レビューの方法と作成
第 5 回　研究の倫理
第 6 回　研究課題の設定とその手順
第 7 回　仮説の構築と検証の手続き
第 8 回　研究資料の収集と分析
第 9 回　量的調査データの実証分析
第 10 回　インタビューによる質的研究
第 11 回　ミクロレベルの評価分析
第 12 回　メゾレベルの評価分析
第 13 回　研究計画
第 14 回　問題を政策と結ぶ研究
第 15 回　まとめ

使用教材

教科書：岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2,310 円（税別）。
講義に使用する資料は適宜配布する

評価方法

学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業への関与の度合いを重視する（50%）。また、学期末にはレポート課す（50%）。

授業外学習の内容

受講生は、教科書の予習・復習だけでなく、関連文献も調べて読んでおくこと。

国際保健学特論　International Health Sciences

担当者	（平成 28 年度は開講しません）
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

今日なお、世界の過半数の人類は貧困問題、食糧問題、環境問題、教育問題など人々の生存に必要な基本的な分野で多くの課題を抱えている。講義では世界の保健医療の現状、国際保健医療協力の理念、国際保健医療協力の体制および方法論等につき概観した後、事例を通じて学ぶ。

到達目標

講義内容と講義計画

第 1 回　国際保健医療協力とは
第 2 回　日本の国際保健医療活動の概要
第 3 回　アジアにおける国際保健医療活動の現状と課題（1）
第 4 回　アジアにおける国際保健医療活動の現状と課題（2）
第 5 回　保健医療関連の国際機関の状況
第 6 回　途上国における環境と生活：インドネシアの場合(1)
第 7 回　途上国における環境と生活：インドネシアの場合(2)
第 8 回　途上国における保健医療の実態：インドネシアの場合(1)
第 9 回　途上国における保健医療の実態：インドネシアの場合(2)
第 10 回　途上国における保健医療の実態：インドネシアの場合(3)
第 11 回　途上国における保健医療の実態：中国の場合（1）
第 12 回　途上国における保健医療の実態：中国の場合（2）
第 13 回　諸外国における保健医療制度(1)
第 14 回　諸外国における保健医療制度(2)
第 15 回　国際保健医療論のまとめ

使用教材

中間の何回かの筆記試験およびレポート提出で総合評価するが、出席状況、学習態度も考慮する。

評価方法

授業外学習の内容

医療倫理特論　Medical Ethics

担当者	大石　桂子
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

近年では先端医療技術の飛躍的な発展によって、人間が生まれる、生きる、死を迎えるという各段階それぞれに、新たな倫理的課題が生じている。

本講義では倫理学の基礎理論を踏まえつつ、「移植医療」、「遺伝子診断」、「エンハンスメント」などのテーマを取り上げる。資料の講読、事例研究、ディスカッションを通して、生命を取り巻く現代の状況、生命の尊重、病気や障害をどのように受けとめるかについて自ら考察することを目的とする。

到達目標

医療倫理、生命倫理の諸テーマについて最新の知見を身につけ、多角的な視点から捉えられる。
テーマについて論理的に思考し、みずからの考えを適切に表現できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　善悪の基準(１)：幸福のための道徳――目的論
第 3 回　善悪の基準(２)：公正のための道徳――義務論
第 4 回　なぜ人命は尊重されるのか――パーソン論とカント
第 5 回　なぜ自己決定が重視されるのか
第 6 回　エンハンスメント(１)：脳と記憶への介入
第 7 回　エンハンスメント(２)：医療化の進む社会
第 8 回　エンハンスメント(３)：弱さの価値
第 9 回　遺伝子診断(１)：遺伝子による就労差別、プライバシー権
第 10 回　遺伝子診断(２)：出生前診断
第 11 回　移植医療(１)：生体移植と自己決定
第 12 回　移植医療(２)：脳死移植――死の定義とは
第 13 回　技術と社会
第 14 回　病気の受けとめと「生きがい」
第 15 回　まとめ

使用教材

講義中に適宜指示する。

評価方法

課題（60%）および講義中の発言、ディスカッション内容など（40%）で評価する。

授業外学習の内容

講義中に配布する資料などを熟読し、課題の作成にあたること。

病院経営特論　Theory of Hospital Management

担当者	木村　憲洋
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

病院経営は、医療政策や地域の医療ニーズ、医療従事者の動向に左右される。医療政策は、国民医療費の増大に対応するため効率的な医療費の配分の方向へと向かっている。地域の医療ニーズは、公衆衛生データや公開された DPC のデータから予測され、自院のポジションを知ることから病院経営へ生かすことができる。また、医療従事者の地域における需給状況は経営にとって大きな影響を与えることとなる。
本講座では、診療情報管理の重要性に基づき、地域の医療ニーズと自院の地域における医療提供体制を理解し、先進的な病院経営戦略を構築するための方策を検討する。

到達目標

様々な病院経営に関するケースを理解することでミドルマネジャーからトップマネジメントとしての知識を取得することと経営における判断が可能となることを目標とする。

講義内容と講義計画

第 1 回　病院経営の目的：病院経営
第 2 回　病院経営の目的：医療の質
第 3 回　病院経営の目的：経営基盤
第 4 回　病院経営戦略：選択と集中
第 5 回　病院経営戦略：機能分化と連携
第 6 回　病院経営戦略：医療とマーケティング
第 7 回　病院経営と組織、人材育成：チーム医療
第 8 回　病院経営と組織、人材育成：組織変革
第 9 回　病院経営と組織、人材育成：人材活用
第 10 回　病院経営と組織、人材育成：教育研修
第 11 回　病院経営と手法：診断群分類と分析
第 12 回　病院経営と手法：BSC
第 13 回　病院経営と手法：　TQM/TPS
第 14 回　病院経営のイノベーション：イノベーション
第 15 回　病院経営のイノベーション：介護サービス

使用教材

１からの病院経営、碩学社
病院経営のしくみ、日本医療企画
病院経営のしくみ２、日本医療企画

評価方法

ケーススタディーによる全体討論とレポートにより 100%評価する。

授業外学習の内容

授業は、「１からの病院経営」のケースを題材に学習するため、各章ごとのケースについて理解し、授業に備える必要がある。また、ケースの理解については、「病院経営のしくみ」や「病院経営のしくみ２」など他の文献からも情報を収集し予習する必要がある。

医療経済学特論　Health Economics

担当者	町田　修三
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

将来医療関連の仕事や研究に従事する学生にとって必要な、医療経済に関する諸問題を学習する講座である。医療経済は比較的新しい学問分野であるが、扱っているトピックは多くの国で重要課題となっているケースが頻繁である。本講義では、医療経済の最新の情報を提供して受講者と議論をし、受講者がその分野の最先端の課題に触れ考察する機会としたい。

到達目標

下に示すような内容について充分に理解し、それらを論文のなかで自由に展開できたり、あるいは学部生に指導ができるといったレベルに到達することを目標とする。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクションー授業の進め方、到達目標、評価方法の確認
第 2 回　医療の経済分析－医療需要
第 3 回　医療の経済分析－医療需要と国民医療費の計量分析
第 4 回　病院行動と病院間競争
第 5 回　医療マネジメント
第 6 回　医療マーケティング
第 7 回　地域医療政策
第 8 回　医療改革と医療制度改革
第 9 回　先進国の医療制度改革
第 10 回　途上国の医療制度と改革
第 11 回　経済開発と医療－発展途上国の医療
第 12 回　経済開発と医療－新興国の医療
第 13 回　医薬品産業の経済分析－製薬企業の行動と産業構造
第 14 回　医薬品産業の経済分析－医薬品卸会社の行動と産業構造
第 15 回　まとめ

使用教材

特に指定はしないが、推薦図書を何冊か紹介する。講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

講義は対話形式やリサーチ内容の発表形式が中心となる。よって講義内でのレスポンスや発言、また発表内容といった通常授業中でのパフォーマンスを重視する（評価の 50%）。学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解して分析が行われているかを重視する）による評価 50%。

授業外学習の内容

授業の中で講読するべき文献（論文、テキスト、記事、ノート等）を配布する。文献に沿って講義を進めるので（ディスカッションを含む）、毎回必ず予習してくること。

生体画像情報学特論　Biological imaging and information Science

担当者	児玉　直樹
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

近年、医用画像診断機器は高度化し、生体画像のディジタル化が急速に普及している。それに伴い、CT や MRI などから得られた三次元画像の臨床応用も進んでおり、生体画像情報学の重要性は益々高くなっている。本科目では、医用画像診断機器から得られる生体画像の特徴、生体画像の解析と認識、画像情報の管理、およびそれらを基盤にしたコンピュータ支援診断技術とその評価方法について研究する。

到達目標

生体画像情報に関連した最新技術とその技術の問題点、問題点の克服について考えられるようになる。

講義内容と講義計画

第 1 回　医用画像、生体画像の基礎知識
第 2 回　生体画像の情報化
第 3 回　画像診断機器から得られる生体画像の特徴Ⅰ
第 4 回　画像診断機器から得られる生体画像の特徴Ⅱ
第 5 回　画像の評価Ⅰ
第 6 回　画像の評価Ⅱ
第 7 回　生体画像の解析Ⅰ
第 8 回　生体画像の解析Ⅱ
第 9 回　生体画像の認識
第 10 回　医療情報、電子保存、セキュリティ
第 11 回　画像情報の管理
第 12 回　コンピュータ支援診断技術Ⅰ
第 13 回　コンピュータ支援診断技術Ⅱ
第 14 回　コンピュータ支援診断技術の評価方法
第 15 回　まとめ

使用教材

講義に必要な資料は適時配布する。参考書については最初の講義で提示する。

評価方法

提出された課題（100%）により評価する。

授業外学習の内容

学習内容をより深いものとするために、配布資料、参考書、文献については事前に読むこと。

健康情報学特論演習　Health Informatics

担当者	竹内　裕之
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

病気の早期発見を目的として定期的な健康診断が実施されているが、より積極的に健康管理をするためには日常の生活環境で発生している個人の健康情報や生活習慣情報を対象とし、そこから健康維持・増進に有用な知識を獲得することの重要性が指摘されている。本講義では、このような技術を「健康データマイニング」と名づけその手法について実践的に学ぶ。

到達目標

健康データマイニングの意義、手法について理解し、実践できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　導入・健康情報学とは
第 2 回　治療１－低侵襲手術－
第 3 回　治療２－粒子線治療－
第 4 回　治療３－再生医療－
第 5 回　検診１－遺伝子検診－
第 6 回　検診２－分子イメージング－
第 7 回　予防１－個人健康管理－
第 8 回　データベースの構築演習（Ⅰ）
第 9 回　データベースの構築演習（Ⅱ）
第 10 回　データマイニング技術（Ⅰ）
第 11 回　データマイニング技術（Ⅱ）
第 12 回　健康データマイニング演習（Ⅰ）
第 13 回　健康データマイニング演習（Ⅱ）
第 14 回　健康データマイニング演習（Ⅲ）
第 15 回　健康データマイニング演習（Ⅳ）

使用教材

自作 ppt ファイルのプリント

評価方法

健康データマイニング演習のレポートにて評価する。

授業外学習の内容

ビッグデータを対象とした統計学的データ処理手法について学んでおく。

画像処理特論演習　Image Processing & Pattern Recognition

担当者	（平成 28 年度は開講しません）
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

画像処理においては、目標候補を自動抽出し、それらに対し信頼性の高いパターン識別を実現することが肝要である。そのためには、目標が持つ計算可能な特徴量を見出す信号処理技術と、目標候補群より真の目標と偽の目標とを区別するパターン識別技術を学ぶ必要がある。本演習で、まず例題を解説し、演習課題は受講生が研究対象とする画像における目標抽出方法の開発とする。

到達目標

一般的な画像処理の手法を理解し、特に医療分野に適用できる応用力をつける。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクションー授業の進め方、到達目標、評価方法の確認
第 2 回　信号処理レベルでの目標抽出の方法（1）
第 3 回　信号処理レベルでの目標抽出の方法（2）
第 4 回　信号処理レベルでの目標抽出の方法（3）
第 5 回　統計的手法によるパターン識別レベルでの目標抽出の方法（1）
第 6 回　統計的手法によるパターン識別レベルでの目標抽出の方法（2）
第 7 回　統計的手法によるパターン識別レベルでの目標抽出の方法（3）
第 8 回　演習課題の取り組み方針（ディスカッション）（1）
第 9 回　演習課題の取り組み方針（ディスカッション）（2）
第 10 回　演習課題の取り組み方針（ディスカッション）（3）
第 11 回　コンピュータプログラミングとその結果の評価（1）
第 12 回　コンピュータプログラミングとその結果の評価（2）
第 13 回　コンピュータプログラミングとその結果の評価（3）
第 14 回　改善、今後の推進方法に関する議論（1）
第 15 回　改善、今後の推進方法に関する議論（2）

使用教材

講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

演習課題に関するレポートによる評価（60%）と、講義中に適宜質問し内容を充分に理解しているかによる評価（40%）による。

授業外学習の内容

画像処理に用いるプログラミング技術を身に付けておく。

医用工学特論　Biomedical Engineering

担当者	宮川　道夫
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

科学技術の目覚ましい進歩に支えられた現代医学は、客観性・定量性に富んだ生体情報の獲得と治癒確率の高い治療を実現する医療福祉機器やサービスによって実現されている。医療福祉の実践を技術面から支える人材育成のため、本講義では生体の働きを反映した物理・化学信号を定量的に捉えて診断情報を提供、或いは治療するシステムの原理や特徴について学び、臨床実務遂行に役立つ知識を修得する。

到達目標

医療福祉を支える機械・器具の原理や大まかな仕組み、本質的に重要な特徴について理解するとともに、複数機器の組み合わせ使用に際しての危険排除等、有効かつ安全な使用法について常に配慮する習慣を身につける。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　医療福祉のための物理学 1
第 3 回　医療福祉のための物理学 2
第 4 回　医療福祉のための化学 1
第 5 回　医療福祉のための化学 2
第 6 回　生体物性 1
第 7 回　生体物性 2
第 8 回　生体信号と処理
第 9 回　診断に関わる医療福祉機器・システム 1
第 10 回　診断に関わる医療福祉機器・システム 2
第 11 回　治療に関わる医療福祉機器・システム 1
第 12 回　治療に関わる医療福祉機器・システム 2
第 13 回　医療福祉機器と安全性の確保
第 14 回　医療情報システム
第 15 回　まとめ

使用教材

講義は独自の ppt ファイル提示により行うが、中心となる参考書は以下の 2 点である。
[1] 軽部征夫：医療従事者のための医用工学概論、オーム社、2009 年
[2] 嶋津秀昭：医用工学概論、コロナ社、2007

評価方法

出席と、2 回のレポート内容評価により成績評価を行う。

授業外学習の内容

講義資料は事前に配布するので予定範囲内にある専門用語や原理に関係する物理・化学現象について高校の教科書等で予め関連する知識を確認してから講義に臨むことが必要である。また、講義の中では適宜演習課題を課すので、終了後に講義内容について復習するとともにその解答を得ることで各自知識を確認する。

備考：担当教員メールアドレス　miyakawa@eng.niigata-u.ac.jp

情報システム構築特論演習　Information System Construction Methodology

担当者	東福寺　幾夫
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

医療において、病気を診断し、治療方針を選択し、治療効果の評価をしていくうえで、情報こそがそのキーであり、現代の医療は情報システムの支援なくして、成り立ち得ないのである。医療情報システムは、こうした現代医療を支える重要なツールである。医療情報システムの構築を担当するシステムエンジニア（SE)は医療・医学の知識とプログラミングなど IT スキルが必要とされる。さらに多機能化・複雑化する医療情報システムを構築するには、システム構築技法を理解し使いこなすこととともに、プロジェクトマネジメント力も求められる。そこで、本演習では、有力なシステム構築ツールである ULM（Unified Modeling Language)について理解を深め、開発プロジェクトに応用できるようにする。

到達目標

UML の技法について説明でき、そのうちのいくつかの技法を実際のシステム開発に応用できることを目標とする。

講義内容と講義計画

第 1 回　Introduction、本演習の進め方
第 2 回　UML の概要
第 3 回　開発プロセス
第 4 回　クラス図
第 5 回　シーケンス図
第 6 回　クラス図：上位概念
第 7 回　オブジェクト図
第 8 回　パッケージ図
第 9 回　配置図
第 10 回　ユースケース
第 11 回　状態マシン図
第 12 回　アクティビティ図
第 13 回　コミュニケーション図、コンポジット図、コンポーネント図
第 14 回　コラボレーション、相互作用概念図、タイミング図
第 15 回　まとめ

使用教材

UML モデリングのエッセンス第 3 版　マーチン・ファウラー著　羽生田栄一監訳　翔泳社
その他必要に応じて書籍文献を紹介する。

評価方法

討議内容および課題レポートを総合的に評価する。

授業外学習の内容

提示された演習課題を事前に実施し持参すること。

データ工学特論　Data Engineering

担当者	小杉　尚子
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

ネットワーク環境の整備が進み、コンピュータや記憶機器類の低価格化・高性能化によって、膨大な量のデータを収集・蓄積・処理することが可能になっている。しかし、それらのデータを効果的・効率的に処理し、そこから有益な知見を獲得するためには、基本的なデータ処理方法に精通し、データを適切な形にデザインする力が必要である。本講義では、数値データとテキストデータを対象に、臨床研究デザインに基づいて、データ分析やデータ・デザインを学習すると共に、最新のデータ・マイニング技術およびテキスト・マイニング技術を、演習を交えながら学習する。

到達目標

数値データおよびテキストデータの基本的な処理方法を理解し、課題に対して適切な手法を選択できる。
データ・マイニング技術およびテキスト・マイニング技術について理解し、課題に対して適切な手法を選択できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　臨床研究デザイン（1）
第 3 回　臨床研究デザイン（2）
第 4 回　データ分析（1）
第 5 回　データ分析（2）
第 6 回　データ・デザイン（1）
第 7 回　データ・デザイン（2）
第 8 回　データ・マイニング
第 9 回　データ・マイニング（含む演習）
第 10 回　自然言語処理
第 11 回　形態素解析
第 12 回　テキスト・マイニング（1）
第 13 回　テキスト・マイニング（2）
第 14 回　テキスト・マイニング（含む演習）
第 15 回　まとめ

使用教材

講義に必要な資料等は適時配布する

評価方法

適時設定する課題の提出状況および内容によって評価する（100%）

授業外学習の内容

予習用に配布した資料を事前に読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと

医療福祉情報学特別研究　Healthcare Informatics Research

担当者	竹内裕之、小澤瀞司、東福寺幾夫、児玉直樹、木村憲洋、小杉尚子
時期・単位	医療福祉情報学専攻　1･2 年　通年　選択　8 単位

講義目標

情報技術の実社会への適用という観点から医療福祉情報学に関する研究テーマを選定し、研究計画の策定、実施、修士論文作成のすべての過程において、指導教員が助言・指導を行う。特にこの分野は工学（情報）と保健衛生学との学際領域であることから、幅広い視野に立った研究指導を行う。

到達目標

研究計画の策定、実施、修士論文作成、プレゼンテーションの過程を通して、医療福祉情報分野における研究能力と情報技術を実社会に適用できる力を身に付ける。

講義内容と講義計画

第 1～4 回　テーマ・課題設定に関する討議
第 5～6 回　研究計画の策定・発表
第 7～15 回　研究実施内容のレビューと方向付け
第 16～18 回　研究実施内容のレビュー
第 19～20 回　専攻内中間発表会
第 21～24 回　纏め方を意識した研究実施内容のレビュー
第 25～28 回　修士論文作成指導
第 29～30 回　修士論文専攻内最終発表会

使用教材

研究遂行に必要な参考書などを適宜紹介する。

評価方法

修士論文の審査結果にて評価に代える。

授業外学習の内容

我が国の少子高齢化にともなう医療福祉分野の様々な課題への情報技術の活用方法に関し学習を深めておく。

質的/量的研究総論　Qualitative research and Quantitative research

担当者	安達　正嗣・上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年通年　選択　4 単位

講義目標

保健福祉学における調査研究の主たる二つの方法である質的研究と量的研究について講義を行う。質的研究は、比較的に数の少ないデータについて「何故、どうして」という意味内容を把握するために行われる。内容分析、グラウンデッドセオリー、エスノグラフィーなどの方法で記述データを扱うことが多い。量的研究は、数の多いデータを標準化された尺度で数量化し平均値比較や相関を探索する研究である。学生が、研究の基礎になる二つの方法論について十分に理解すること。

到達目標

学生が、用いる予定の研究方法について、質的研究が適応なのか、量的研究が適応なのかを考えることができ、実現可能な研究方法を一人で計画できるようになること。

講義内容と講義計画

第 1 回～第 3 回　調査研究の基礎
第 4 回～第 6 回　仮説と実証
第 7 回～第 9 回　質的研究概説
第 10 回～第 12 回　質的研究例と方法論
第 13 回～第 15 回　量的研究概説
第 16 回～第 18 回　量的研究と方法論
第 19 回～第 21 回　研究デザインの基礎
第 22 回～第 24 回　研究方法の吟味
第 25 回～第 27 回　疫学研究倫理審査について
第 28 回～第 30 回　研究論文のまとめ方

使用教材

第 1 回の時に学生と相談の上、研究テーマに応じて決める

評価方法

授業態度や面接内容

授業外学習の内容

講義前には、担当に該当する教科書の内容を読んでおくこと。講義の後に「関連文献」や「関連書籍」を伝えるので、それを読み関心を高めること。なお質的研究を安達、量的研究を上原が、主に担当する予定。

社会福祉研究方法論　Research Methods of Social Welfare

担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

福祉およびその関連領域における研究法について、教科書および既存論文・報告書などを通して幅広く学び、論文作成に役立てる。

到達目標

自立した研究者として、社会福祉研究に関する方法論を理解して身につける。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学問の一分野としての社会福祉研究
第 3 回　現場の視点と研究の視点
第 4 回　研究レビューの方法と作成
第 5 回　研究の倫理
第 6 回　研究課題の設定とその手順
第 7 回　仮説の構築と検証の手続き
第 8 回　研究資料の収集と分析
第 9 回　量的調査データの実証分析
第 10 回　インタビューによる質的研究
第 11 回　ミクロレベルの評価分析
第 12 回　メゾレベルの評価分析
第 13 回　研究計画
第 14 回　問題を政策と結ぶ研究
第 15 回　まとめ

使用教材

教科書：岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣アルマ、2,310 円（税別）。
講義に使用する資料は適宜配布する

評価方法

学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業への関与の度合いを重視する（50%）。また、学期末にはレポート課す（50%）

授業外学習の内容

受講生は、教科書の予習・復習だけでなく、関連文献も調べて読んでおくこと。

保健福祉調査特論　Basic Research Methods in Health and Welfare Sciences

担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

本講義では、保健福祉分野における実証研究に対応するための社会調査の基礎について解説し、受講生に作業をしてもらいながらすすめていく。単に調査に関する研究技法を身につけるだけでなく、論理的な思考力を養ってもらいたい。

到達目標

保健福祉の調査方法の基本を理解して応用できるようにする。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　調査対象と調査主体の明確化
第 3 回　調査目的の設定と社会貢献の意味
第 4 回　調査の企画と調査回数（横断調査と縦断調査）
第 5 回　サンプリング（標本抽出）の方法と対象者の協力
第 6 回　質問紙調査と測定方法
第 7 回　事前調査の意義
第 8 回　配布・回収と自記式・他記式
第 9 回　量的分析方法（記述統計、仮説検証、統計的手法）
第 10 回　質的調査の方法（面接・観察・記録）
第 11 回　質的データの分析の手法
第 12 回　調査倫理と個人情報
第 13 回　国際比較調査の課題
第 14 回　社会福祉調査の困難さと長所
第 15 回　まとめ

使用教材

教科書：齋藤嘉孝『社会福祉調査』新曜社、2,200 円（税別）。
講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業ならびに作業への関与の度合いを重視する（50%）。また、学期末にはレポート課す（50%）

授業外学習の内容

受講生は、教科書の予習・復習だけでなく、関連文献も調べて読んでおくこと。

精神神経医学特論　Neuropsychiatry research

担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

Psychiatry is a medical specialty involving the diagnosis, treatment and prevention of mental, emotional and behavioural disorders. One in five people will experience a mental illness at some stage in their lives.　A mental illness or disorder is a diagnosable illness that significantly interferes with an individual's cognitive, emotional or social abilities. Mental illness can have a devastating effect on the lives of an individual's and their families and in some cases, may even be life threatening. This course aims that students should learn fundamental issues to become a specialist in collaboration with the diagnosis, treatment and prevention of mental illness and emotional problems. And purpose of the course is that students can work closely with a variety of other healthcare professionals such as hospital staffs, community psychiatric nurses, psychiatric or medical social workers, psychologists or psychotherapists, teachers and occupational therapists.

到達目標

精神神経医学は、精神疾患や心理的問題にかかわる行動医学分野である。競技の精神障害にり患している人々は、5 人に一人ともいわれる。うまれてから老年に至るまで、幅広いライフステージにわたり、個人の認知、情動、社会的機能に重大な影響を与える。当事者のみならず、家族や周囲の人々、社会にも大きな苦悩をもたらす。学生が、精神障害や心理的問題の核心を学び、診断や支援に関わる専門家の一人としての基本を身に着け、関連するヘルスケア多職種との協働に向け、専門職として機能的に働けるようになることを目標とする。

講義内容と講義計画

第 1 回　精神神経医学とは
第 2 回　対人援助職の特性
第 3 回　こころや脳の構造と防衛機制
第 4 回　精神症状と行動心理評価
第 5 回　診断学と疾病学
第 6 回　各論 1
第 7 回　各論 2
第 8 回　各論 3
第 9 回　各論 4
第 10 回　各論 5
第 11 回　正常な悲嘆と複雑な悲嘆
第 12 回　人格や性格理論
第 13 回　科学的検査や最新の知見
第 14 回　まとめ 1
第 15 回　まとめ 2

使用教材

独自の資料を配布する。

評価方法

授業態度と面接内容

授業外学習の内容

自分自身の体験、現場での体験に応じたディスカッションのための準備をしてもらう。

家族社会学特論　Research of Family Sociology

担当者	安達　正嗣
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

本講義は、保健福祉分野で必要とされる家族社会学の基礎と応用を身につけていけるようにすすめていく。

到達目標

受講生がそれぞれの関心と専門性に関連して、家族社会学の研究を活かせるようにする。

講義内容と講義計画

第 1 回　はじめに
第 2 回　家族研究の発端
第 3 回　家族分析の基礎
第 4 回　親族と地域生活
第 5 回　家族変動・近代家族
第 6 回　結婚の定義・結婚行動
第 7 回　夫婦関係
第 8 回　生殖行動
第 9 回　子育てと子どもの社会化
第 10 回　階層と職業
第 11 回　家族危機・家族と個人
第 12 回　離婚
第 13 回　世代間関係
第 14 回　家族問題
第 15 回　家族政策

使用教材

教科書：野々山久也編著『論点ハンドブック　家族社会学』世界思想社、2,625 円。
講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

学生の疑問点に答え、議論しながら進めていきたい。そのためには、学生諸君の積極的な関与が必要であるので、評価においては授業ならびに作業への関与の度合いを重視する（50%）。また、学期末にはレポート課す（50%）。

授業外学習の内容

報告者だけでなく、他の受講生も本文ならびに関連文献を読んでおくこと。

子育て支援特論Ⅰ　Child Care Support (Mastered) I

担当者	千葉　千恵美
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

今日の社会状況の中で子育ての困難さ、親子関係の変化など家族環境の変化による養育問題の実情を把握し、困難事例を通して、子育て支援に必要な理論や技法を習得し、複雑化する家族環境にむけた支援方法について学習を深める

到達目標

子育て支援ための子どもと家族理解と子育て支援方法について、実際の活動場面での具体的な関わりや支援を行うための理論と技術を習得する。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション　時間割作成と年間スケジュールの確認　授業概要についての説明
第 2 回　児童・家庭の生活実態と取り巻く社会情勢　子どもを産み育てるための社会、児童虐待防止の取り組み
第 3 回　家族の役割機能　育てる事の意義　子どもの育ちの課題　躾と養育力　子育て支援の課題と方法、
第 4 回　家族の歴史、　家系図を作成、個々の家系図についての理解を深める　箱庭療法を体験する
第 5 回　乳幼児期の課題とアプローチ　乳幼児期における家族関係及び臨界期の支援の必要性について
第 6 回　家族葛藤や家族関係について　家族が抱えるテーマと課題の検討
第 7 回　事例検討　①子ども表す遊びによってみえた家族の課題と支援方法の検討
第 8 回　事例検討　②国際結婚児について保育所(園)の入所親子にむけた支援方法の検討
第 9 回　事例検討　③事例の課題によるグループディスカッション
第 10 回　事例検討　④学生による事例研究　グループディスカッション及びスーパビジョン
第 11 回　医療、教育、福祉からみた子育て支援の実情　児童虐待を含む困難事例の対応課題
第 12 回　親カウンセリングの方法と実践、家族ソーシャルワーク視点と応用
第 13 回　精神疾患の親と子育て支援の必要性について　危機的介入アプローチの実際の取り組み
第 14 回　これからの子育て支援について　新制度　子ども・子育て支援法のゆくえについて
第 15 回　まとめ　（ディスカッション）

使用教材

平山宗宏（編）「子どもの保健と支援」日本小児医事出版社 2011
千葉千恵美著「保育ソーシャルワークと子育て支援」久美株式会社　2011

評価方法

学生の積極性や質疑応答などを総合的に判断する（レポート提出）

授業外学習の内容

授業前には、指定した教科書の該当部分を事前に読み、自分なりの意見が言えるように準備しておく。授業の後は、授業で行った内容を再度見直し、検討、整理し、次回の授業の準備につなげる。関心が高まった領域については、講師から資料を提供するので自己研鑽に励む。

子育て支援特論Ⅱ　Child Care Support (Mastered) II

担当者	千葉　千恵美
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

子育て支援の理論と技術を習得した上で、保育現場で応用できる面接技法、親子関係への理解等調査し、様々な取り組みについて理解を深める。また医療、福祉、教育等他機関との連携による支援、特にハイリスクのある家族（精神疾患を抱える家族、国際結婚児）の子育て支援等、アプローチから援助方法まで児童虐待予防にむけた研究に取り組み理解を深める。

到達目標

①育児不安が強い母親の背景理解と支援できること
②精神疾患や発達障害の母親を理解し支援ができること
③虐待のハイリスク家族についてアセスメントや早期発見と他領域とのコラボレーションができること

講義内容と講義計画

オリエンテーション　時間割作成、後期スケジュール、授業概要について
第 1 回　子どもと家族に関する国際比較調査報告の検討　グループディスカッション
第 2 回　海外の研究調査を基に子育て支援の取り組みを理解　育児不安の高い場合の支援方法
第 3 回　児童虐待事例の実際から　虐待が起こるメカニズム、子どもの発達課題、親の精神状況理解について検討
第 4 回　Playing by the Rules: Integrated Care’s Impact on Qualty of ADHD Management
第 5 回　面接方法技術の理解　半構造化によるインタビュー形式内容、分析、カテゴライズの内容についての検討
第 6 回　家族支援の基礎理解　困難家族支援方法　①面接場面設定
第 7 回　家族支援の基礎理解　困難家族支援方法　②面接目的　アセスメントの重要性、トリアージの方法
第 8 回　家族支援の基礎理解　困難家族支援方法　③課題にむけた介入支援　イニシアチブの取り方
第 9 回　子どもソーシャルワークの実践　児童虐待にむけた支援　早期発見への手がかり
第 10 回　子どもソーシャルワークの実践　児童相談所　医療機関　警察との連携の重要性について
第 11 回　児童虐待の取り組み　地域ネットワークの必要性と具体的な支援　地域の社会資源の活用 NPO 法人
第 12 回　児童虐待防止、死亡事故から学ぶ　①危機的介入とハイリスク家族への支援
第 13 回　児童虐待防止　死亡事故から学ぶ　②児童相談所の役割
第 14 回　グループディスカッション（児童虐待事例検討からの検証）
第 15 回　まとめ

使用教材

子育て支援特論Ⅰで使用するテキスト及び子育て支援特論Ⅱでは、ソリューション・フォーカス・アプローチ　インスー･キム・バーグ著　磯貝希久子監訳　「家族支援ハンドブック」金剛出版　2001 を使用する

評価方法

学生の積極性や質疑応答などを総合的に判断する。（レポート提出）

授業外学習の内容

指定した教科書、また関係資料については事前に目を通しておく。毎回、授業で行った事例検討を再度確認､整理し、次回の授業の準備につなげる。現在、保育や幼稚園教育に携わっている学生であれば、1 週間の間で気になった子どもや母親についてレポートしてもらう。

精神保健特論　Mental Health

担当者	狩野　正之
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

うつ病および自殺対策の話題を中心に精神保健学について理解する。

到達目標

講義内容と講義計画

第 1 回～5 回　精神保健学総論
第 6 回～9 回　うつ病
第 10 回～12 回　うつ病以外の精神疾患
第 13 回～15 回　自殺対策

回数にとらわれず、上記の内容を、指導生とともに検討しながら進めてゆく

使用教材

特になし

評価方法

最終回にレポートを提出し評価(課題は授業中に決める)

授業外学習の内容

トラウマの理解と支援特論　Traumatic stress

担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

PTSD(posttraumatic stress disorder)は、突然の衝撃的出来事を経験することによって生じる、特徴的な精神疾患である。PTSD の診断のためには災害、戦闘体験、犯罪被害など、強い恐怖感を伴う外的な体験（トラウマ）が、必要条件となる。しかし最近の研究では、「衝撃的出来事の経験＝PTSD 発症」という単純な図式ではなく、むしろ出来事に対する直後の「強い恐怖、無力感または戦慄」を重要視している。本論を通じ、昨今の様々な社会的な事件事故災害などの発生に鑑み、学生がトラウマおよび PTSD を理解し、社会福祉の現場での支援や課題について考察できるようになる。

到達目標

学生が、トラウマやストレスに関連する障害の基本を理解し、その支援や現代的課題について考察できること。

講義内容と講義計画

第 1 回　トラウマティックストレス総論、トラウマ理論の歴史（1）
第 2 回　トラウマティックストレス総論、トラウマ理論の歴史（2）
第 3 回　トラウマティックストレス総論、トラウマ理論の歴史（3）
第 4 回　ストレス関連疾患、PTSD の基礎科学（1）
第 5 回　ストレス関連疾患、PTSD の基礎科学（2）
第 6 回　ストレス関連疾患、PTSD の基礎科学（3）
第 7 回　PTSD の診断と症状、急性ストレスについて（1）
第 8 回　PTSD の診断と症状、急性ストレスについて（2）
第 9 回　PTSD の診断と症状、急性ストレスについて（3）
第 10 回　PTSD の支援、PTSD をめぐる様々な問題（1）
第 11 回　PTSD の支援、PTSD をめぐる様々な問題（2）
第 12 回　PTSD の支援、PTSD をめぐる様々な問題（3）
第 13 回　昨今の社会的問題との関連、社会福祉の現場におけるトラウマ（1）
第 14 回　昨今の社会的問題との関連、社会福祉の現場におけるトラウマ（2）
第 15 回　昨今の社会的問題との関連、社会福祉の現場におけるトラウマ（3）

＊受講者と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。

使用教材

適宜参考書を推薦。（例、雑誌「トラウマティック・ストレス」、JSTSS 学会誌、じほう株式会社）

評価方法

講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。

授業外学習の内容

配布した資料を基に、復習と自主的な発展的学習を行うこと。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。

食とメンタルヘルス特論　Mental health and eating attitudes

担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

2005 年に成立した食育基本法では、食は生きるための基本的な行動であり、食に関する知識の教育が、心身の発達に重要であると明確に宣言された（「国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組みにより、健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことを目的としている」）。学生が、メンタルヘルスと食との関連や、さまざまな精神・心身の問題と「食」との密接な関係について学習し考察できる。

到達目標

学生が、摂食障害などメンタル疾患と文化・人間関係と食行動との関係、現代社会の抱える食の問題などにも視野を広げられること。

講義内容と講義計画

第 1 回　ヒトや動物の食行動について、食にかかわる健康問題（1）
第 2 回　ヒトや動物の食行動について、食にかかわる健康問題（2）
第 3 回　ヒトや動物の食行動について、食にかかわる健康問題（3）
第 4 回　心身医学的・精神医学的な疾患と食行動（1）
第 5 回　心身医学的・精神医学的な疾患と食行動（2）
第 6 回　心身医学的・精神医学的な疾患と食行動（3）
第 7 回　摂食障害特論（1）
第 8 回　摂食障害特論（2）
第 9 回　摂食障害特論（3）
第 10 回　子どもの摂食問題、現代社会の抱える食の問題（1）
第 11 回　子どもの摂食問題、現代社会の抱える食の問題（2）
第 12 回　子どもの摂食問題、現代社会の抱える食の問題（3）
第 13 回　マインドフルな食、まとめ（1）
第 14 回　マインドフルな食、まとめ（2）
第 15 回　マインドフルな食、まとめ（3）

＊受講者と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。

使用教材

適宜参考書を推薦する（食にとらわれたプリンセス―摂食障害をめぐる物語、上原徹、星和書店など）

評価方法

講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。

授業外学習の内容

配布した資料を基に、復習と自主的な発展的学習を行うこと。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。

地域福祉特論　Community Care System

担当者	金井　敏
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

2000 年の社会福祉法改正や福祉制度・サービスの多元化，日常的に地域で起こっている生活課題など近年クローズアップされている諸問題を地域福祉実践と研究を切り口に学ぶ。

到達目標

文献研究やフィールドワーク研究を通じて，地域福祉に関する学術レベルの議論が展開できる資質を養う。

講義内容と講義計画

第 1 回　授業ガイダンス…授業の目的，内容，すすめ方，評価方法の確認
第 2 回　地域社会の変遷～人口構造・家族構造・要援護者の実態
第 3 回　社会福祉基礎構造改革と地域福祉の考察
第 4 回　社会的援護が必要な人々の実態の検討
第 5 回　社会福祉法の改称・改正の考察
第 6 回　中央社会福祉審議会・社会保障審議会など政策動向の考察
第 7 回　地域福祉と高齢者福祉・介護保険制度の考察
第 8 回　地域福祉計画における行政と市民の役割の考察
第 9 回　地域福祉実践の考察①～ふれあい・いきいきサロン
第 10 回　地域福祉実践の考察②～ボランティア活動
第 11 回　地域福祉実践の考察③～民生委員・児童委員活動
第 12 回　地域福祉実践の考察④～社会福祉協議会活動とコミュニティソーシャルワーク
第 13 回　地域福祉実践の考察⑤～災害時ソーシャルワーク
第 14 回　地域福祉実践の考察⑥～住民活動と地域福祉の役割
第 15 回　地域福祉展開のパラダイム

使用教材

○テキストは特になし。
○授業担当者が指定する文献・論文は適宜配布する。
○推奨文献・論文は適宜紹介する。

評価方法

①授業内における文献研究・フィールドワーク研究の発表内容＝約 50%
②授業内における発題や応答などディスカッションへの積極的な姿勢および当該テーマへのアプローチ方法の創意工夫など研究者としての資質の深化＝約 50%

授業外学習の内容

○テーマに関する予習を行うこと。
○フィールドワークにおいて地域福祉の視点から考察を試みること。

高齢者保健福祉特論　Health and Welfare for older adults

担当者	松沼　記代
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

高齢者保健・福祉分野における施策サービスの概要や問題点を明確にして、問題点の解決方法や理念を具現化するための方法について科学的に検証する。このような過程をとおし、柔軟に思考する能力や分析する能力を習得する。

到達目標

高齢者保健福祉分野の施策サービスについて理解し、理念を具現化するための方法や問題点の解決方法について科学的に検証できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　導入　授業の進め方
第 2 回　高齢者保健福祉施策の概要及び課題　(1)介護保険サービス
第 3 回　高齢者保健福祉施策の概要及び課題　(2)地域包括ケア①
第 4 回　高齢者保健福祉施策の概要及び課題　(2)地域包括ケア②
第 5 回　欧米における高齢者福祉施策の実情と課題　①カナダ
第 6 回　欧米における高齢者福祉施策の実情と課題　②ドイツ
第 7 回　尊厳を支えるケアに関する法律・制度と課題
第 8 回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題　(1)ケアプラン
第 9 回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題　(2)ユニットケア
第 10 回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題　(3)第三者評価
第 11 回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題　(4)研修制度①
第 12 回　尊厳を支えるケアを具現化するための施策と課題　(4)研修制度②
第 13 回　介護予防事業の動向
第 14 回　介護予防事業の課題
第 15 回　総括

使用教材

毎回資料を配布するが、適時参考図書を提示する。
松沼記代博士論文「施設内研修におけるエスノグラフィーの効果に関する研究」

評価方法

レポート提出及び発表 70%、授業の参加度 20%

授業外学習の内容

毎回授業終了後に指定する課題を、次回提出すること。

教育・福祉紛争解決特論　Resolution of Education/Welfare Disputes

担当者	森部　英生
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

福祉施設である保育所（園）であれ教育施設である学校であれ、そこでの保育・教育が然るべく行われるためには、家庭と保育所（園）・学校とが緊密に連携協力する必要がある。保護者側から種々の要望やクレームが寄せられ、これに施設・学校側が対応すべきである所以はここにある。本科目では、保護者側から寄せられる多様な要望・クレームに、施設・学校ないし保育者・教師がどのように対応すべきか、また、それがトラブルとなったときにはどのような解決・処理方法があるか等について、内外の文献及び実例を素材に考察する。

到達目標

保護者や地域住民から施設・学校園側に寄せられるクレームに、職員等がどのように対応するのが適切であるかを、理論的に考察し、実践的にも身につけて、現場に助言指導できるような力を養うことをめざす。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　クレームとは何かを明らかにする
第 3 回　わが国における「クレーム社会」状況全般についての考察
第 4 回　保育に関するクレーム状況の把握
第 5 回　教育に関するクレーム状況の把握
第 6 回　クレームのトラブル・紛争への移行過程
第 7 回　保育に関する紛争の裁判事例の検討
第 8 回　教育に関する紛争の裁判事例の検討
第 9 回　裁判による紛争解決の長短
第 10 回　裁判と裁判外紛争解決
第 11 回　裁判外紛争解決（ＡＤＲ）の長短
第 12 回　保育をめぐるＡＤＲ事例
第 13 回　教育をめぐるＡＤＲ事例
第 14 回　「保育・教育紛争解決学」樹立の可能性
第 15 回　まとめ

使用教材

院生と相談の上、適切を思われる文献・資料等を用いるとともに、授業中の事前事後に関連資料を配布する。

評価方法

院生の授業に対する貢献度 30%、途中で適宜課すレポート・報告等 70%を総合して評価する。

授業外学習の内容

クレーム・紛争・裁判・ＡＤＲに関する事例・文献等、授業のたびに配布される資料を予め検討し、また、当該授業で配布された諸資料を詳細に事後検討しておくこと。

発達障害の脳科学と支援特論　Neuroscience of developmental disorders towards improvements of their support

担当者	上原　徹
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

神経発達障害は、社会性やコミュニケーション、想像性、注意機能、衝動制御などに特異的な様態を有する。これらは、生来の脳機能の特性に由来することがおおよそ明らかになってきている。こうした特徴は、場合によっては、平均的な社会状況や対人場面で困難や不自由を生みだす。こうした事態が、養育や修学、就労をめぐって持続すると、心理社会生物要因が複雑に絡み合った 2 次的な障害を呈する。学生が、最新の脳科学的知見を学習し、得られる知見を心理生物社会福祉的な支援に結びつけるような考察を行うこと。

到達目標

学生が、神経発達障害をめぐる問題を俯瞰し、脳科学的な知見を学び、実際の支援に生かせるようになる。

講義内容と講義計画

第 1 回　神経発達障害の総論、各論（1）
第 2 回　神経発達障害の総論、各論（2）
第 3 回　神経発達障害の総論、各論（3）
第 4 回　自閉スペクトラムの脳科学（1）
第 5 回　自閉スペクトラムの脳科学（2）
第 6 回　注意欠如多動性障害の脳科学（1）
第 7 回　注意欠如多動性障害の脳科学（2）
第 8 回　その他の発達障害、2 次的な問題や障害（1）
第 9 回　その他の発達障害、2 次的な問題や障害（2）
第 10 回　支援の現状と課題（1）
第 11 回　支援の現状と課題（2）
第 12 回　社会福祉施策（1）
第 13 回　社会福祉施策（2）
第 14 回　教育や司法の現場から、総合討論、レポート発表（1）
第 15 回　教育や司法の現場から、総合討論、レポート発表（2）

＊受講者と検討のうえ、適宜変更や追加を行い、柔軟に進めていく方針である。

使用教材

適宜参考書を推薦する（佐々木正美、自閉症のすべてがわかる本、講談社など）

評価方法

講義への出席、レポートの提出、授業への参加態度、プレゼンテーションやディスカッションの内容、論文審査の過程等を総合して判断する。

授業外学習の内容

配布した資料を基に、復習と自主的な発展的学習を行うこと。自ら、疑問や課題となるテーマを毎回持参すること。

特別支援教育学特論　Study of Education for the Children with Special Needs

担当者	松田　直
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

近年、我が国において特別支援教育の必要な幼児・児童・生徒は増えている。各学校現場において個に応じた教育実践を目指して種々の取り組みが行われているが、様々な課題が山積しているのが実情である。本講義では、それらの課題を把握し、解決に向けての方策について多面的に考察することを目標とする。

到達目標

特別支援教育の現状を把握し、課題解決に向けての具体的な方策を福祉の立場から複数示せることが到達目標である。

講義内容と講義計画

第 1 回　特殊教育から特別支援教育への移行
第 2 回　学校教育における障害種別と福祉分野における障害種別
第 3 回　学校教育における学習の場の多様化
第 4 回　就学基準と就学相談
第 5 回　障害のある子どもの教育の歴史的経緯と重度・重複障害のある子どもの義務教育化
第 6 回　養護学校教育から除外された重度・重複障害者
第 7 回　特別支援学校と小・中学校の特別支援学級における教育課程
第 8 回　特別支援教育に固有の領域としての自立活動（健康／心理的安定／人間関係／環境把握／運動動作／コミュニケーション)
第 9 回　障害のある子どもの実態把握と教育的係わり
第 10 回　重度・重複障害のある子どもの医学所見と発達経過
第 11 回　医療技術の進歩と学校における医療的ケアの実施
第 12 回　障害のある子どもの早期発見と就学前教育
第 13 回　障害のある子どもの義務教育卒業後・高等部卒業後の進路
第 14 回　障害のある子どもの学校教育と生涯学習、余暇活動
第 15 回　まとめ－特別支援教育の現状と課題

使用教材

毎回のテーマに関連する資料を配布する。また、ビデオ記録を随時使用する。

評価方法

出席状況 10%、授業における発言内容 40%、レポート 50%で評価を行う。

授業外学習の内容

毎回の授業テーマに関連する資料を事前に配布するとともに、関連文献の紹介も行うので、授業時間以外の時間帯に学習することが不可欠である。また、時間的に可能であれば、松田が行っている特別支援学校での授業研究会に同行してもらい、学校現場の実情把握と問題意識の深化を試みる。

福祉人材育成特論　Human Resource Development for a Person Engaged in Social Welfare Service

担当者	永田　理香
時期・単位	保健福祉学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

福祉・介護ニーズは多様化・複雑化しており、質の高いサービスを維持するためには、従事者の確保と共に、組織マネジメントの視点から人材育成の体制整備を行う必要がある。
本講義では、人材育成を組織的な学習・教育活動と捉え、社会福祉施設・機関のリーダー、管理者等の人材育成担当者に求められる、福祉職場におけるキャリアパス構築及び活用方法等の、福祉人材育成における方法論について学んでいく。

到達目標

・福祉人材育成の今日的課題について理解することができる。
・福祉人材育成方法の標準化における課題について理解することができる。
・福祉職場において活用できるキャリアパスの構築方法について理解することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション―人材育成とは―
第 2 回　社会福祉学における福祉人材育成の位置づけ
第 3 回　福祉人材育成に関する政策的変遷
第 4 回　標準化の視点からみた福祉・介護サービスの特性
第 5 回　福祉職場の職場研修における実態と課題
第 6 回　都道府県社会福祉研修実施機関における福祉の職場研修の実態と課題
第 7 回　福祉職場におけるキャリアパスの導入と課題
第 8 回　キャリアパスに対応した生涯研修課程の検討
第 9 回　カリキュラムデザインの視点からみた福祉の職場研修
第 10 回　カリキュラムデザインの手法に基づくキャリアパスの構築方法
第 11 回　カリキュラム評価の視点からみた福祉職場におけるキャリアパスの分析
第 12 回　カリキュラムマネジメントの視点を導入した福祉職場におけるキャリアパスの活用（事例検討）
第 13 回　カリキュラムマネジメントの視点に基づく福祉職場におけるキャリアパスの評価（事例検討）
第 14 回　福祉の職場研修におけるカリキュラムマネジメントの可能性
第 15 回　まとめ、研究成果の発表

使用教材

講義に使用する資料は適宜配布する。また、参考資料、文献等は、講義内容に基づき提示する。

評価方法

ディスカッションを中心とした授業展開とするため、授業への参加度及び発言内容（50%）、最終講義における研究成果の発表内容（50%）により評価する。

授業外学習の内容

研究成果の発表に向け、各回の授業内容の振り返りと整理をしておくこと。

保健福祉学特別研究　Seminar for Master's Thesis on Health and Welfare Sciences

担当者	指導教員
時期・単位	保健福祉学専攻　1･2 年　通年　必修　8 単位

講義目標

保健福祉学に関する修士論文完成に向けて、問題意識の抽出と研究テーマの設定、研究デザインの吟味と計画の作成、研究の実施遂行、データ解析、考察を含めた学会発表、論文の作成にわたるすべての過程において、指導教員による適切な助言・指導を通じて、大学院生が主体的に研究を完遂し、論文を完成していく。

到達目標

学生が、修士論文の完成し、修士の学位を取得する。研究者としての倫理や基本的姿勢を獲得する。

講義内容と講義計画

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　卒業論文の報告
第 3 回　修士論文における問題意識の明確化（目次の作成）
第 4 回　関連文献リストの作成と方法
第 5 回～第 9 回　関連文献リストからの講読①～⑤
第 10 回　レビュー論文の作成方法
第 11 回～第 13 回　受講生のレビュー論文に対する検討①～③
第 14 回　レビュー論文の完成
第 15 回　前期のまとめ
第 16 回～第 18 回 受講生の調査の企画・設計①～③
第 19 回　調査の企画・設計に対する検討・完成
第 20 回～第 22 回　調査方法の検討①～③
第 23 回～第 25 回　データ分析をめぐる議論①～③
第 26 回～第 28 回　修士論文案の報告と検討①～③
第 29 回　修士論文の最終検討
第 30 回　修士論文の提出

使用教材

各指導教員より別途指示する。

評価方法

修士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。

授業外学習の内容

他の院生や研究科内の教員、学内外の専門家との議論や交流を通じて、研究者としての基本を身につける。

食品栄養学特論 Advanced Food and Nutrition Science

担当者	綾部・岡村・木村・下川・曽根・田中・永井・松岡・村松・渡辺
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　必修　4 単位

講義目標

食品栄養学全般の広い視野にわたり学識を深め、各分野の専門知識や新たな問題を学習する。

到達目標

各分野の最近の動向や問題について説明できる。

講義内容と講義計画

第 1 回～第 3 回　食と健康、疾病に関する疫学的研究の最近の動向（渡辺）
第 4 回～第 6 回　疾病、身体障害、摂取障害及び競技スポーツなど特別な条件を持つヒトを対象とした健康行動科学（木村）
第 7 回～第 9 回　ビタミン様物質であるイノシトールとコリンによる脂質代謝調節機構とミネラルである亜鉛の免疫抑制作用機構（田中）
第 10 回～第 12 回　食品の特徴づける有機化合物の化学構造と食品の三次機能との関係（松岡）
第 13 回～第 15 回　食品の加熱操作による物理・化学的変化の機構およびサイコレオロジー（綾部）
第 16 回～第 18 回　味覚受容体の生理機能と受容体研究の方法論（永井）
第 19 回～第 21 回　臨床栄養に関する最新の研究動向と重要知見（岡村）
第 22 回～第 24 回　胎児環境における生理活性物質(栄養素やホルモン等)の重要性とその破綻（下川）
第 25 回～第 27 回　ライフステージおよび特殊環境における栄養学研究の動向と課題（曽根）
第 28 回～第 30 回　消費者、生産・製造者等の立場からみた食べ物の安全と安心について（村松）

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や受講生と教員の間で議論することで、受講者の理解度を評価する。

授業外学習の内容

関連分野の論文を精読し、内容をまとめる。

食品学特論　Advanced Food Chemistry

担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

食品の機能性を有機化学的な視点から学習する。特に非栄養素と生体機能及び食品と活性酸素について理解を深める。

到達目標

食品の機能性について、有機化学的な視点から実践し、論じることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　ガイダンス、本特論の進め方、到達目標、評価方法の確認
第 2 回　機器分析について
第 3 回　NMR 概論
第 4 回　NMR 操作法
第 5 回　NMR データ解析法
第 6 回　質量分析概論
第 7 回　LCMS 操作法
第 8 回　GCMS 操作法
第 9 回　MS データ解析法
第 10 回　食品の機能性成分の構造解析法 1
第 11 回　食品の機能性成分の構造解析法 2
第 12 回　活性酸素とは
第 13 回　活性酸素と生体
第 14 回　食品成分による活性酸素の消去
第 15 回　まとめ

使用教材

特に指定はしないが、学術雑誌の論文を参考書とすることがある。講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

講義は対話形式やパワーポイントを利用した解説形式が中心となる。よって講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメントなども重視する（評価の 50%）。学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解しているかを重視する）による評価 50%。

授業外学習の内容

機器分析や食品機能について、自分にとってわかりやすい専門書を見つけ出し、予習復習をしてください。

応用食品学特論　Applied food science

担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

地球環境の変化に伴う食糧問題、高齢社会及び寝たきりなどによる生体機能の低下などに対応すべく、環境に適応した高次機能性を有する新規食品のシーズ開発、機能性を有する新規食品の有効利用と効率的な加工の方法について理解し、研究推進の基盤構築を達成目標とする。

到達目標

食品の機能性について、メタボローム解析的手法を実践し、論じることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　ガイダンス、本特論の進め方、到達目標、評価方法の確認
第 2 回　天然物から加工により生じる食品の機能性成分の分析手法について 1
第 3 回　天然物から加工により生じる食品の機能性成分の分析手法について 2
第 4 回　天然物から加工により生じる食品の機能性成分の分析手法について 3
第 5 回　天然物から加工により生じる食品の機能性成分の分析手法について 4
第 6 回　生体内動態とその作用機序について 1
第 7 回　生体内動態とその作用機序について 2
第 8 回　食品の抗酸化性 1
第 9 回　食品の抗酸化性 2
第 10 回　食品の抗酸化性 3
第 11 回　疾病モデル動物による効能評価 1
第 12 回　疾病モデル動物による効能評価 2
第 13 回　メタボローム解析による機能性食品の評価
第 14 回　メタボローム解析による生体内動態の評価
第 15 回　まとめ

使用教材

特に指定はしないが、学術雑誌の論文を参考書とすることがある。講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

講義は対話形式やパワーポイントを利用した解説形式が中心となる。よって講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメントなども重視する（評価の 50%）。学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解しているかを重視する）による評価 50%。

授業外学習の内容

食品機能と多変量解析によるメタボローム解析について、自分にとってわかりやすい専門書を見つけ出し、予習復習をしてください。

食品安全学特論　Advanced Food Safety

担当者	村松　芳多子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

食品の安全と安心には、食べ物が安全であることと、食べ物が安心であることの二つの意味がある。テーマは「安全と安心」である。「安全、安心とは何か」を考え、現代社会を生きる自分が人間社会の一員で、自分が何をもって食べ物を安全でかつ安心であるかを自覚することは重要である。人間は自然の一部でもあり、環境と社会を考えることなしに、人類の生存はおぼつかない。食に関するビデオ教材、討論と考察を行う。

到達目標

自分がいかに、何も考えず、ただ、食べ物を口にしている（食べている）のかを自覚し、徹底的に食品の安全と安心とは何かを考える。自分における「食品の安全と安心」の意義をみつける。

講義内容と講義計画

「安全、安心とは何か」を考え、現代社会を生きる自分が人間社会の一員で、自分が何をもって食べ物を安全でかつ安心であるかを認識・自覚する。

第 1 回　概要（食品の安全と安心）
第 2 回　現代社会とその食品の安全・安心、および私たちの食生活
第 3 回　食品の安全・安心における社会システム
第 4 回　生産者（生産・製造・加工・流通・販売）と消費者
第 5 回　食品保存と食品添加物
第 6 回　食品汚染と健康被害
第 7 回　食品と微生物制御
第 8 回　微生物と化学物質による食中毒
第 9 回　健康食品の安全性（食品と医薬品の違い）
第 10 回　食品の安全と安心を考える 1（環境と理論）
第 11 回　食品の安全と安心を考える 2（近代科学と現代科学）
第 12 回　食品の安全と安心を考える 3（科学と技術）
第 13 回　食品の安全と安心を考える 4（どう生きるか、どう考えるか 1）
第 14 回　食品の安全と安心を考える 5（どう生きるか、どう考えるか 2）
第 15 回　まとめ（討論・考察）

使用教材

必要に応じて配布、および紹介する
食物に関する DVD 教材を使用する

評価方法

試験を実施する（100%）
資料や文献等の持ち込みは可能
制限時間内に論文を仕上げる

授業外学習の内容

新聞の食品の安全・安心に関する記事をスクラップする
消費者として、健康食品等の広告より科学的根拠の記載の有無を調査する
食品の安全・安心に関する法規制に対して関心をもつ

調理機能学特論　Functional cookery science advanced lecture

担当者	綾部　園子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

調理学を基礎として、各種調理操作に伴って生ずる食品の呈味成分・機能性成分・物性・組織の変化を理解するとともに、食べ物に対する人間の受容性とかかわりについて、身体的・心理的側面から考察する。講義、実験、討議の一連の過程において、研究者として必要な総合的な知識・態度を修得する。

到達目標

・各種調理操作に伴って生ずる食品の呈味成分・機能性成分・物性・組織の変化を説明できる。
・食べ物に対する人間の受容性とかかわりについて、身体的・心理的側面から説明できる。

講義内容と講義計画

各テーマごとに講義を行った後に、実験・データ解析を行い、討議する。
第 1 回　イントロダクションー授業の進め方、到達目標、評価方法
第 2 回　味覚の受容機構と閾値　講義
第 3 回　味覚の受容機構と閾値　実験
第 4 回　味覚の受容機構と閾値　データ解析・討論
第 5 回　ポリフェノール類やビタミン類などの抗酸化成分の調理による変化　講義
第 6 回　ポリフェノール類やビタミン類などの抗酸化成分の調理による変化　実験
第 7 回　ポリフェノール類やビタミン類などの抗酸化成分の調理による変化　データ解析・討論
第 8 回　ゲル状食品の物性
第 9 回　ゲル状食品の物性　実験
第 10 回　ゲル状食品の物性　データ解析・討論
第 11 回　咀嚼・嚥下機能と食品物性　講義
第 12 回　サイコレオロジー　講義
第 13 回　サイコレオロジー　実験
第 14 回　サイコレオロジー　データ解析・討論
第 15 回　プレゼンテーション、まとめ

使用教材

特に指定はしないが、参考書を何冊か紹介する。
資料は適宜配布する。

評価方法

各テーマごとの討論 50%、レポート 50%

授業外学習の内容

各テーマに関連する文献を検索して、内容を理解しておくこと。
実験後はデータを整理しておくこと。

栄養学特論　Advanced nutrition

担当者	永井　俊匡
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

摂食行動に関与する味覚は、栄養学における重要な一分野である。この科目では、味覚受容のしくみと最新の研究の展開を解説する。この中で、研究の流れに沿って解説を行うことで、研究者として必要な論理的思考の涵養も図る。

到達目標

1. 味覚受容のしくみを通じて、細胞内・細胞間シグナル伝達について、説明できる。
2. 英語の論文を読み、その内容について討議できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　分子生物学的な研究の基礎
第 2 回　味覚受容機構の概論
第 3 回　味覚受容体発見の歴史
第 4 回　甘味受容体
第 5 回　うま味受容体
第 6 回　苦味受容体
第 7 回　酸味受容体
第 8 回　塩味受容体
第 9 回　脊椎動物の味覚受容体
第 10 回　細胞内シグナル伝達
第 11 回　遺伝子の個人差と味覚受容の個人差の関係
第 12 回　味覚の個人差の検出法
第 13 回　味蕾以外に発現する味覚関連分子
第 14 回　味覚修飾物質
第 15 回　まとめ講義

使用教材

講義資料を、前の週に配布する。

評価方法

出席 30%、授業中の質疑応答 30%、レポート 40%

授業外学習の内容

前の週に配布した講義資料を、予習しておく。
レポート提出までに、指定した論文を読んで、その論文の意義を考察しておく。

分子生物学特論　Special Seminar for Molecular biology

担当者	田中進・保坂公平
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

分子生物学は、コンピューターを始めとする情報科学と同様に 20 世紀に最も進歩した学問である。この学問の進歩により、遺伝情報の流れが明かとなり、医学、生物学、農学の理解が分子のレベルで理解できるようになった。この科目では、その基本を教授する。

到達目標

ヒトゲノム計画からヒトゲノム配列がどの様にして決定されたか、(1)その歴史的背景、(2)計画達成の結果、どの様な果実が得られたか、(3)他の産業への波及効果、倫理問題などについて説明できる。また発表後 10 年以上経過した現在の諸問題について討論できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　ヒトゲノム計画に至る道
第 2 回　ヒトゲノム計画の戦略と開始
第 3 回　国際チームとセレーラ社の競争
第 4 回　2000 年 6 月の第一次概略版の発表とその内容の意味
第 5 回　ゲノム産業の抱える諸問題
第 6 回　ゲノム診断は万能か？
第 7 回　タンパク質の分子生物学
第 8 回　情報伝達の分子生物学
第 9 回　情報伝達の異常としての病気
第 10 回　発生の分子生物学
第 11 回　がんの分子生物学
第 12 回　分子生物学の医学への応用(1)標的タンパク質の構造とドラッグデザイン
第 13 回　分子生物学の医学への応用(2)テーラーメード医療
第 14 回　分子生物学の医学への応用(3)RNA 医療
第 15 回　分子生物学の未来

使用教材

テキスト：好きになる分子生物学(萩原清文著、講談社)
参考書：遺伝子から生命をみる(関口睦夫ら著、共立出版)

評価方法

出席状況及び、講義中の質問への対応を基に評価を行う。

授業外学習の内容

指定したテキストの章を毎授業前に読んでおく。

栄養生化学特論　Advanced Nutrition Biochemistry

担当者	田中　進
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

本講義は脂質の分類、構造の特徴、解析法などの基礎的事項を修得し、脂質のもつ 3 つの基本的機能「膜構成成分」、「エネルギー源」、「シグナル分子」を理解する。これにより、脂質が関与するメタボリックシンドローム、癌、アレルギーなど最新の知見について自由に展開できることを目標とする。

到達目標

脂質のもつ 3 つの基本的機能「膜構成成分」、「エネルギー源」、「シグナル分子」を説明することが出来る。脂質とメタボリックシンドローム、癌、アレルギーなどの関連が説明できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション　－授業の進め方、到達目標、評価方法の確認－
第 2 回　脂質の分類・構造
第 3 回　脂質の分離・精製法
第 4 回　脂質解析の方法論
第 5 回　リン脂質の測定法と応用
第 6 回　脂質の生合成と分解
第 7 回　脂質の分解酵素(1)　PLA2
第 8 回　脂質の分解酵素(2)　PLC、PLD
第 9 回　脂質メディエーターの生合成
第 10 回　生理活性脂質の細胞膜受容体
第 11 回　イノシトールリン脂質代謝と細胞内シグナル伝達
第 12 回　脂質メディエーターと免疫
第 13 回　コレステロールホメオスタシス
第 14 回　アディポネクチンと脂質代謝
第 15 回　脂質研究のこれから

使用教材

講義に使用する資料は適宜配布する。

評価方法

講義は対話形式やリサーチ内容の発表形式が中心となる。従って、講義内での発言や発表内容を重視する（評価の 50%）。また学期末に課すレポート（レポートの採点にあたっては、講義の内容を充分に理解して分析が行われているかを重視する）による評価を 50%とする。

授業外学習の内容

指定したキーワードを毎授業前に調べておく。

臨床栄養学特論　Clinical Nutrition

担当者	岡村　信一
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

食により人の体は作られる。食と健康・疾病との関わりについて、最新の論文等を用いて基礎および臨床の両面から学習する。

到達目標

食と健康・疾病との関わりについて基礎知識を理解するとともに、最新情報について基礎および臨床の両面から批判的に吟味できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　食と栄養・代謝系疾患（1）
第 2 回　食と栄養・代謝系疾患（2）
第 3 回　食と栄養・代謝系疾患（3）
第 4 回　食と内分泌系疾患
第 5 回　食と消化器系疾患（1）
第 6 回　食と消化器系疾患（2）
第 7 回　食と消化器系疾患（3）
第 8 回　食と循環器系疾患（1）
第 9 回　食と循環器系疾患（2）
第 10 回　食と腎・尿路系疾患（1）
第 11 回　食と腎・尿路系疾患（2）
第 12 回　食と神経・精神系疾患
第 13 回　食と呼吸器系疾患
第 14 回　食と血液系疾患
第 15 回　食と免疫・アレルギー系疾患

使用教材

資料は適宜配布する。

評価方法

出席、プレゼンテーション、ディスカッションの状況から総合的に成績を評価する。

授業外学習の内容

食と健康・疾病との関わりに関する最新情報に対して、日常生活の上でも常に注意を払い批判的に吟味する。

栄養教育学特論　Nutrition Education

担当者	木村　典代
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年後期　選択　2 単位

講義目標

肥満ややせの生理と食行動との関係、ストレスと食意識・食行動、著しい身体活動増加時の食行動等に焦点をあて、このような状況下における栄養教育プログラムを考察する。

到達目標

1）肥満と食行動の関係を説明できる
2）国際的な栄養教育について説明できる
3）身体活動と食行動の関係を説明できる
4）栄養教育の評価について説明できる

講義内容と講義計画

第 1 回　肥満者の食行動 1
第 2 回　肥満者の食行動 2
第 3 回　肥満と運動 1（エネルギー代謝）
第 4 回　肥満と運動 2（糖代謝）
第 5 回　ダイエットと体重
第 6 回　国際的な栄養教育
第 7 回　スポーツ選手の食行動（エネルギー） 1
第 8 回　スポーツ選手の食行動（食意識） 2
第 9 回　スポーツ選手の食行動（食環境） 3
第 10 回　スポーツ選手の食行動（女子選手の 3 主徴） 4
第 11 回　スポーツ栄養マネジメント
第 12 回　ストレスと食行動 1
第 13 回　ストレスと食行動 2
第 14 回　栄養教育の評価 1
第 15 回　栄養教育の評価 2

使用教材

特に指定はしない。授業中に参考文献・参考図書を適宜紹介する。

評価方法

文献紹介・文献講読および対話・発表を行う。
授業中の発言や発表内容などの授業態度（80%）、レポートの提出(20%)にて成績評価を行う。

授業外学習の内容

第 1～2 回　関連する文献を事前に渡すのでそれを読んでまとめてくること
第 3～4 回　関連する文献を調べてくること
第 5～6 回　ダイエットの種類、国際的な栄養教育の実態について事前に調査をしてくること
第 7～11 回　授業でまなんだことについてレポートを作成すること
第 12～13 回　関連する文献を事前に渡すのでそれを読んでまとめてくること
第 14～15 回　栄養教育マネジメントを確認しておくこと

保健情報学特論　Health Informatics

担当者	渡辺　由美
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

栄養教育、栄養指導、公衆栄養活動を効果的に実践するには、多角的視野から情報を収集し、収集した情報を適切に分析・判断する能力が必要である。本講義では、地域、学校、職場等の人間集団を対象に健康状態、食生活や栄養状態を評価するための疫学的方法論や結果を適切に評価するための統計学的手法について講述する。さらに、各種調査から得られる結果の信頼性（妥当性や有効性）を客観的に評価し、正しく利用するための応用力を養う。

到達目標

食品栄養学分野の情報を適切な統計処理方法を用いて分析し、得られた結果を適切に考察できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　データ処理について 1
第 2 回　データ処理について 2
第 3 回　データ処理について 3
第 4 回　データ処理について 4
第 5 回　データ解析「基本統計量・クロス集計」1
第 6 回　データ解析「基本統計量・クロス集計」2
第 7 回　データ解析「推定・検定」1
第 8 回　データ解析「推定・検定」2
第 9 回　データ解析「推定・検定」3
第 10 回　データ解析「推定・検定」4
第 11 回　データ解析「推定・検定」5
第 12 回　データ解析「推定・検定」6
第 13 回　データ解析「推定・検定」7
第 14 回　データ解析「推定・検定」8
第 15 回　データ解析「推定・検定」9

使用教材

講義に使用する資料を適宜配布する。

評価方法

課題に対する学習意欲 20%、レポートの内容 80%などで総合的に評価する。

授業外学習の内容

１．講義内容を復習し、理解を深める。
２．関連分野の論文を精読し、内容をまとめる。

栄養生理学特論　Advanced Course on Nutritional Physiology

担当者	下川　哲昭
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

人体生理学を概観（第 1 回～第 6 回）した後、栄養・栄養素の観点から生理機能を考察する（第 7 回～13 回）。最後に内分泌機能の破綻である糖尿病や消化器疾患である吸収不良症候群等を通して疾患と栄養生理学の関連性を理解する（第 14、15 回）ことを目標とする。

到達目標

１．人体の多様な機能の詳細を栄養生理学的側面から系統的に説明できる。
２．消化・吸収、栄養・代謝の破綻における疾病の特徴と発症機序を栄養生理学を通して理解し他人に説明できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　体液・血液・免疫の生理学
第 2 回　循環・呼吸の生理学
第 3 回　内分泌・生殖の生理学
第 4 回　神経生理学
第 5 回　消化器系の生理学
第 6 回　泌尿器系の生理学
第 7 回　栄養素の合成・分解 1
第 8 回　栄養素の合成・分解 2
第 9 回　栄養素の消化・吸収 1
第 10 回　栄養素の消化・吸収 2
第 11 回　生理機能に果たす栄養素の役割 1
第 12 回　生理機能に果たす栄養素の役割 2
第 13 回　生理機能に果たす栄養素の役割 3
第 14 回　内分泌機能の破綻による疾病の栄養生理学的考察
第 15 回　消化・吸収機能の破綻による疾病の栄養生理学的考察

使用教材

参考図書：リッピンコットシリーズ　イラストレイデッド・生理学（鯉淵・栗原監訳、丸善出版）。
適時資料、文献等を配布する。

評価方法

講義への出席が評価の前提である。その上で、講義中の発言（質問や返答）、資料の提示、討論への積極性などで評価する。

授業外学習の内容

複数回提示される関連論文の読解や症例問題の解説ができるように授業外学習で取り組む。

応用栄養学特論　Applied Nutrition

担当者	曽根　保子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年前期　選択　2 単位

講義目標

1. 応用栄養学に関する研究論文を科学的視点から理解する能力を養う。
2. 科学的根拠に基づき、研究課題を論理的に考える力を身につける。

到達目標

1. 応用栄養学に関する研究論文の内容を理解することができる。
2. 研究内容について，科学的根拠に基づき、論理的に考察することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究論文の講読
第 2 回　研究論文の調べ方 1
第 3 回　研究論文の調べ方 2
第 4 回　研究論文の活用方法
第 5 回　研究論文の理解 1　ビタミン
第 6 回　研究論文の理解 2　ビタミン
第 7 回　研究論文の理解 3　ビタミン
第 8 回　研究論文の理解 4　ビタミン
第 9 回　研究論文の理解 5　ビタミン
第 10 回　研究論文の理解 6　機能性成分
第 11 回　研究論文の理解 7　機能性成分
第 12 回　研究論文の理解 8　脂質
第 13 回　研究論文の理解 9　脂質
第 14 回　研究論文の理解 10　環境・ストレス
第 15 回　研究論文の理解 11　環境・ストレス

使用教材

適宜資料を配布する。

評価方法

課題の内容および完成度を 50 %、毎回の授業への取り組み姿勢（質疑応答・ディスカッション等）を 50 %として評価する。

授業外学習の内容

1. 事前に授業範囲を確認し、分からない専門用語の意味を理解する。
2. 講義内容に関連する演習・レポートを通して関連事項を調べ、講義内容の理解を深める。

食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ

担当者	綾部　園子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

食品の調理性に関する研究を遂行する上で、国内外の学術論文を精読し、最新知見を得ることは重要である。文献の検索法とその管理について学び、研究推進に活用する。

到達目標

・自己の研究に関係する文献を検索し、管理することができる。
・それらを精読して、最新の知見をまとめて発表できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　概論（テーマ決定、研究倫理もふくむ）
第 2 回　インターネット等を用いた文献検索について 1
第 3 回　インターネット等を用いた文献検索について 2
第 4 回　インターネット等を用いた文献検索について 3
第 5 回　文献収集について 1
第 6 回　文献収集について 2
第 7 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 1
第 8 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 2
第 9 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 3
第 10 回　データの収集と取り扱い方について 1
第 11 回　データの収集と取り扱い方について 2
第 12 回　研究ノートの作成法について 1
第 13 回　研究ノートの作成法について 2
第 14 回　プレゼンテーション法 1
第 15 回　プレゼンテーション法 2

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

作成した文献リスト（30%）、プレゼンテーション（30%）およびディスカッション等（40%）により、総合的に評価する。

授業外学習の内容

授業時間内で終わらなかった課題について、次回までに完成させる。
学術論文の不明な事項について、調べて理解する。

食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ

担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

専門分野に関わる国内外の論文を精読し、最新知見を得るとともに実験手法や論文のまとめ方について総合的に習得する。

到達目標

・自己の研究に関係する文献を検索し、管理することができる。
・それらを精読して、最新の知見をまとめて発表できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　概論（テーマ決定、研究倫理もふくむ）
第 2 回　インターネット等を用いた文献検索について 1
第 3 回　インターネット等を用いた文献検索について 2
第 4 回　インターネット等を用いた文献検索について 3
第 5 回　文献収集について 1
第 6 回　文献収集について 2
第 7 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 1
第 8 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 2
第 9 回　文献管理ソフト（Endnote 等）の活用方法 3
第 10 回　データの収集と取り扱い方について 1
第 11 回　データの収集と取り扱い方について 2
第 12 回　研究ノートの作成法について 1
第 13 回　研究ノートの作成法について 2
第 14 回　プレゼンテーション法 1
第 15 回　プレゼンテーション法 2

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

作成した文献リスト（30%）、プレゼンテーション（30%）およびディスカッション等（40%）により、総合的に評価する。

授業外学習の内容

授業時間内で終わらなかった課題について、次回までに完成させる。
学術論文の不明な事項について、調べて理解する。

食品科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Food Science　Ⅰ

担当者	村松　芳多子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

食物に関わる広範囲な栄養学と食品学等に関する内容（研究課題）の一端を健康や疾病との関わりから模索し、人間栄養学・実験栄養学の研究手法を用いて分析・評価・検討する。

到達目標

『何を覚えるかではなくて、どうやって考えるかという方法を習得し、「君たちはどう生きるか（吉野源三郎）」を考える。方法を見つける力があるならば、初めて出会った現象でも、これを探求するための方法を自分の力で考え出すことができる（石川伊織）』を実践する。

講義内容と講義計画

何をどのように考察し、それをどのように文章化するか、という技術（修辞学）を身につける（講読学術論文言語は、日本語）。

第 1 回　概要（講義の進め方）
第 2 回　テーマの立て方 1（解説）
第 3 回　テーマの立て方 2（実践）
第 4 回　調査の仕方 1（解説：文献検索方法等）
第 5 回　調査の仕方 2（実践 1）
第 6 回　調査の仕方 3（実践 2）
第 7 回　資料・素材の分析 1（解説）
第 8 回　資料・素材の分析 2（実践 1）
第 9 回　資料・素材の分析 3（実践 2）
第 10 回　素材の配置 1（解説）
第 11 回　素材の配置 2（実践）
第 12 回　文章を書く 1（構想）
第 13 回　文章を書く 2（下書き）
第 14 回　文章を書く 3（清書）
第 15 回　文章の完成（提出）

使用教材

必要に応じて配布する

評価方法

提出する論文（レポート）で評価する（100%）

授業外学習の内容

国内の学術論文の収集、および論文を読む（テーマに関する論文を 50～100 程度）

食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science Ⅱ

担当者	綾部　園子
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

食品の嗜好性およびその評価方法に関する実験データの整理、検定、解析方法、および論文作成のための文章、図表、描画作成方法など、総合的な演習を通して修得する。

到達目標

・適切なデータ整理、検定、解析方法を理解し実践できる。
・論文作成のツールの扱いを理解し活用できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究用データベースソフトの活用について 1
第 2 回　研究用データベースソフトの構築法 1
第 3 回　研究用データベースソフトの構築法 2
第 4 回　データの検定法 1
第 5 回　データの検定法 2
第 6 回　データの検定法 3
第 7 回　多変量解析によるデータ解析法について 1
第 8 回　因子分析法
第 9 回　クラスター分析法
第 10 回　論文作成方法
第 11 回　アウトライン化法による論文構成づくり
第 12 回　図表の作成法
第 13 回　写真データの取り扱い
第 14 回　研究用イラスト作成法
第 15 回　化学構造式描画ソフトの活用

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

実験データの扱い方（30%）と作成した文章、図表、描画（30%）およびディスカッション（40%）により総合的に評価する。

授業外学習の内容

授業時間内で終わらなかった課題について、次回までに完成させる。

食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science Ⅱ

担当者	松岡　寛樹
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

高度なデータ解析や文献整理のための専用ソフトを用いてプレゼンテーション方法や論文記述方法について総合的に学習し、研究者養成のための総合的な演習を行う。

到達目標

・適切なデータ整理、検定、解析方法を理解し実践できる。
・論文作成のツールの扱いを理解し活用できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究用データベースソフトの活用について 1
第 2 回　研究用データベースソフトの構築法 1
第 3 回　研究用データベースソフトの構築法 2
第 4 回　データの検定法 1
第 5 回　データの検定法 2
第 6 回　データの検定法 3
第 7 回　多変量解析によるデータ解析法について 1
第 8 回　因子分析法
第 9 回　クラスター分析法
第 10 回　論文作成方法
第 11 回　アウトライン化法による論文構成づくり
第 12 回　図表の作成法
第 13 回　写真データの取り扱い
第 14 回　研究用イラスト作成法
第 15 回　化学構造式描画ソフトの活用

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

実験データの扱い方（30%）と作成した文章、図表、描画（30%）およびディスカッション（40%）により総合的に評価する。

授業外学習の内容

授業時間内で終わらなかった課題について、次回までに完成させる。

食品科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Food Science Ⅱ

担当者	村松　芳多子
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

食物に関わる広範囲な栄養学と食品学等に関する内容（研究課題）の一端を健康や疾病との関わりから模索し、人間栄養学・実験栄養学の研究手法を用いて分析・評価・検討する（食品科学総合演習Ⅰ 承前)。

到達目標

『何を覚えるかではなくて、どうやって考えるかという方法を習得し、「君たちはどう生きるか（吉野源三郎)」を考える。方法を見つける力があるならば、初めて出会った現象でも、これを探求するための方法を自分の力で考え出すことができる（石川伊織)』を実践する。

講義内容と講義計画

何をどのように考察し、それをどのように文章化するか、という技術（修辞学）を身につける（講読学術論文言語は、英語)。
第 1 回　概要（講義の進め方）
第 2 回　テーマの立て方
第 3 回　文献収集 1（解説）
第 4 回　文献収集 2（実践）
第 5 回　資料の整理 1（解説）
第 6 回　中間発表 1
第 7 回　資料の整理 2（実践 1）
第 8 回　資料の整理 3（実践 2）
第 9 回　中間発表 2
第 10 回　文書を書く 1（解説、実践 1）
第 11 回　文書を書く 2（実践 2）
第 12 回　中間発表 3
第 13 回　文書を書く 3（実践 3）
第 14 回　文書を書く 4（実践 4）
第 15 回　文書・論文の完成（提出）

使用教材

必要に応じて配布する

評価方法

提出する論文（レポート）で評価する（100%）

授業外学習の内容

国外の学術論文（英語）の収集、および論文を読む（テーマに関する論文を 5～10 程度）

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	岡村　信一
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

生命科学と栄養科学に関する最新の学術論文・研究成果を収集・吟味して考察する方法を学ぶ。

到達目標

自身の問題解決に必要となる学術論文・研究成果を必要十分に収集し、批判的に吟味して考察できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　問題解決に必要な学術論文の収集方法について学ぶ。
第 2 回　問題解決に必要な研究成果を学術論文以外から収集する方法について学ぶ。
第 3 回　収集した学術論文・研究成果の批判的吟味と考察について学ぶ。（1）
第 4 回　収集した学術論文・研究成果の批判的吟味と考察について学ぶ。（2）
第 5 回　幅広いテーマで最新の学術論文・研究成果を取り上げ、批判的吟味と考察について具体的に学ぶ。（1）
第 6 回　専攻テーマに関連した学術論文・研究成果を収集する。（1）
第 7 回　収集した学術論文・研究成果を取り上げ、批判的に吟味して考察する。（1）
第 8 回　専攻テーマに関連した学術論文・研究成果を収集する。（2）
第 9 回　収集した学術論文・研究成果を取り上げ、批判的に吟味して考察する。（2）
第 10 回　専攻テーマに関連した学術論文・研究成果を収集する。（3）
第 11 回　収集した学術論文・研究成果を取り上げ、批判的に吟味して考察する。（3）
第 12 回　専攻テーマに関連した学術論文・研究成果を収集する。（4）
第 13 回　収集した学術論文・研究成果を取り上げ、批判的に吟味して考察する。（4）
第 14 回　収集した学術論文・研究成果をデータベース化する。
第 15 回　吟味・考察した結果をまとめる。

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

生命科学と栄養科学に関連する最新の情報に対して、日常生活でも常に注意を向ける。また、専攻分野以外の科学的知見についても注意を払う。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	木村　典代
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

研究テーマに関連した国内外の論文を精読し、この分野の知識を包括的に修得するとともに、データの分析方法を習得する。

到達目標

研究テーマに関連した国内外の学術論文を収集し精読できる。
研究テーマに関連した国内外の学術論文のデータを正しく解釈することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　関連論文の検索と収集方法について
第 2 回　関連論文の基本構成について
第 3　関連論文の精読とディスカッション 1
第 4 回　関連論文の精読とディスカッション 2
第 5 回　関連論文の精読とディスカッション 3
第 6 回　関連論文の精読とディスカッション 4
第 7 回　関連論文の精読とディスカッション 5
第 8 回　関連論文の精読とディスカッション 6
第 9 回　データの見方と分析方法 1
第 10 回　データの見方と分析方法 2
第 11 回　データの見方と分析方法 3
第 12 回　データの見方と分析方法 4
第 13 回　データの見方と分析方法 5
第 14 回　データの見方と分析方法 6
第 15 回　まとめ

使用教材

別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

各講義にて使用する文献を事前に読んでおくこと。
ディスカッションに備えて、データ収集と分析を実施すること。
総合演習では事前課題の取り組みが大変重要となる。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	田中　進
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

生体内の主要元素や微量元素の発見の歴史、必須性、毒性、生理作用に関する基礎的知識を学び、将来、この分野の研究立案、研究遂行を自ら推進できる素養を身につける。

到達目標

生体内の主要元素、微量元素の発見の歴史的背景やこれら元素の必須性、毒性、生理作用を説明できる。また、この分野で研究課題となるテーマを選定できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション　―授業の進め方、到達目標、評価方法の確認―
第 2 回　生命元素とは何か
第 3 回　主要元素と微量元素
第 4 回　元素の各論(1)主要元素（Na,K）
第 5 回　元素の各論(2)主要元素（Mg,Ca,Cl）
第 6 回　元素の各論(3)生命元素（B,F,Si）
第 7 回　元素の各論(4)生命元素（V ,Cr,Mn）
第 8 回　元素の各論(5)生命元素（Fe,Co,Ni）
第 9 回　元素の各論(6)生命元素（Cu,Zn,As）
第 10 回　元素の各論(7)生命元素（Se,Mo,I,Sn）
第 11 回　元素の各論(8)生体機能に関わる元素（Li,Be,Al,Ti）
第 12 回　元素の各論(9) 生体機能に関わる元素元素（Ge,Br,Rb,Sr）
第 13 回　元素の各論(10) 生体機能に関わる元素元素（Tc,Pb,Ag,W）
第 14 回　元素の各論(11) 生体機能に関わる元素元素（Pt,Au,Hg,Pb）
第 15 回　講義内容の討論とまとめ

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

指定したキーワードを毎授業前に調べておく。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	渡辺　由美
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

研究テーマに関連した国内外の論文を精読し、最近の知見を得るとともに論文のまとめ方や効果的な分析方法を理解する。

到達目標

１．研究課題に関連した文献を収集することができる。
２．論文の内容を正確に読み取り、要約を説明することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究テーマについて
第 2 回　関連論文の検索と収集 1
第 3 回　関連論文の検索と収集 2
第 4 回　関連論文の精読と討論 1
第 5 回　関連論文の精読と討論 2
第 6 回　関連論文の精読と討論 3
第 7 回　関連論文の精読と討論 4
第 8 回　関連論文の精読と討論 5
第 9 回　関連論文の精読と討論 6
第 10 回　関連論文の精読と討論 7
第 11 回　関連論文の精読と討論 8
第 12 回　関連論文の精読と討論 9
第 13 回　先行研究のまとめ 1
第 14 回　先行研究のまとめ 2
第 15 回　先行研究のまとめ 3

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との議論で理解度を評価する。

授業外学習の内容

１．授業で使用する論文を、事前に読んでおくこと。
２．討論で意見を述べることができるように準備しておくこと。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	永井　俊匡
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

栄養学分野の学術論文について、研究テーマに即して収集・精読し、背景知識を修得する。

到達目標

・研究テーマに即した文献収集ができる。
・収集した国内外の学術論文について、学術的価値を論ずることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　キーワードによる文献検索
第 2 回　総説（1 報目）の精読・内容討議①
第 3 回　総説（1 報目）の精読・内容討議②
第 4 回　総説（2 報目）の精読・内容討議①
第 5 回　総説（2 報目）の精読・内容討議②
第 6 回　総説（3 報目）の精読・内容討議①
第 7 回　総説（3 報目）の精読・内容討議②
第 8 回　精読した総説のまとめ討議
第 9 回　参考文献をたどった文献収集
第 10 回　研究テーマに関連した学術論文（1 報目）の精読・内容討議
第 11 回　研究テーマに関連した学術論文（2 報目）の精読・内容討議
第 12 回　研究テーマに関連した学術論文（3 報目）の精読・内容討議
第 13 回　研究テーマに関連した学術論文（4 報目）の精読・内容討議
第 14 回　研究テーマに関連した学術論文（5 報目）の精読・内容討議
第 15 回　精読した学術論文のまとめ討議

使用教材

別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間の議論などで、総合的に評価する。

授業外学習の内容

自ら収集、あるいは教員の指示した文献を、あらかじめ読んでおく。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	下川　哲昭
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

栄養生理学領域における研究法とその実際について自身の研究テーマを選び研究を遂行し研究成果につなげる。特に、
1）乳汁中のホルモンによる育児行動の解析、
2）先天性脊椎側弯症における胎児期の栄養素について、
3）細胞分化因子 EID1 の脂質代謝における抑制機能、の 3 点に焦点をあてて講義と研究を行う。

到達目標

研究の醍醐味を味わい、新たな環境でも自分で研究を遂行できる能力を確立することを目標とする。
自身の研究成果を英文への学術雑誌に投稿・掲載することを目指す。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究とは？イントロダクションと研究方法について 1。
第 2 回　研究とは？イントロダクションと研究方法について 2。
第 3 回　研究対象における現在までの既知情報の収集 1。
第 4 回　研究対象における現在までの既知情報の収集 2。
第 5 回　研究ゴールの設定。
第 6 回　実験動物の扱い方 1。
第 7 回　実験動物の扱い方 2。
第 8 回　実験動物の扱い方 3。
第 9 回　細胞培養法の確立 1。
第 10 回　細胞培養法の確立 2。
第 11 回　細胞培養法の確立 3。
第 12 回　遺伝子導入法の確立 1。
第 13 回　遺伝子導入法の確立 2。
第 14 回　遺伝子導入法の確立 3。
第 15 回　これまでのまとめ

使用教材

参考図書：リッピンコットシリーズ　イラストレイデッド・生理学（鯉淵・栗原監訳、丸善出版）。
適時資料、文献等を配布する。

評価方法

研究課題の探索、実験のデザイン、実験への熱意、データの解釈、プレゼンテーション、論文の作成等、研究への取り組み全般について総合的に評価する。

授業外学習の内容

複数回提示される関連論文の読解や症例問題の解説ができるように授業外学習で取り組む。

栄養科学総合演習Ⅰ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science　Ⅰ

担当者	曽根　保子
時期・単位	食品栄養学専攻　1 年通年　選択　2 単位

講義目標

1. 健康増進や疾病予防に寄与する栄養素に関する知見を調べ、それらから必要な情報を抽出する力を身につける。
2. 応用栄養学に関する研究論文で取り扱われている事柄を科学的視点から理解する能力を養い、健康へ影響を及ぼすリスク管理の考え方や方法を考察する。

到達目標

1. 健康増進や疾病予防に寄与する栄養素に関する知見を自ら調べ、求めている情報を得ることができる。
2. 応用栄養学に関する研究論文で取り扱われている事柄を科学的視点から理解し、考察することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究論文の調べ方と取り扱い方について
第 2 回　情報データベースの活用法 その 1
第 3 回　情報データベースの活用法 その 2
第 4 回　研究論文の内容理解 その 1
第 5 回　研究論文の内容理解 その 2
第 6 回　研究論文の内容理解 その 3
第 7 回　研究論文からの情報収集 その 1
第 8 回　研究論文からの情報収集 その 2
第 9 回　研究論文からの情報収集 その 3
第 10 回　先行研究の精査および研究課題の抽出 その 1
第 11 回　先行研究の精査および研究課題の抽出 その 2
第 12 回　予備調査・予備実験の実施 その 1
第 13 回　予備調査・予備実験の実施 その 2
第 14 回　予備調査・予備実験の実施 その 3
第 15 回　研究成果の取り扱い方および解析

使用教材

適宜資料を配布する。

評価方法

課題への取り組み姿勢を 50%、課題の内容および完成度を 50%として評価する。

授業外学習の内容

1. 研究内容に関する情報をよく調べ、分からない専門用語・事柄を理解する。
2. 関連する資料をよく調べ、学んだことやそれに対する自分の考察をまとめる。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	岡村　信一
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

研究の進捗や成果をまとめ、考察を加えて発表する方法を学ぶ。

到達目標

自身の専攻テーマに関して進捗や成果をまとめ、ポスター発表・口演発表・論文発表できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究データの収集・利用と保存管理について学ぶ。（1）
第 2 回　研究データの収集・利用と保存管理について学ぶ。（2）
第 3 回　研究成果のまとめ方について学ぶ。（1）
第 4 回　研究成果のまとめ方について学ぶ。（2）。
第 5 回　ゼミ形式の発表方法について学ぶ。
第 6 回　口演発表の方法について学ぶ。（1）
第 7 回　口演発表の方法について学ぶ。（2）
第 8 回　ポスター発表について学ぶ。（1）
第 9 回　ポスター発表について学ぶ。（2）
第 10 回　論文作成について学ぶ（1）
第 11 回　論文作成について学ぶ（2）
第 12 回　論文作成について学ぶ（3）
第 13 回　論文作成について学ぶ（4）
第 14 回　論文作成について学ぶ（5）
第 15 回　総括

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

プレゼンテーションや教員との間で議論することなどで、評価する。

授業外学習の内容

生命科学と栄養科学に関連する最新の情報に対して、日常生活でも常に注意を向ける。また、自身の専攻分野にとらわれることなく、秀逸なプレゼンテーションや学術論文に触れる機会を設ける。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	木村　典代
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

研究テーマに関連する学術論文を要約し、その内容を演習形式で発表、ディスカッションする。

到達目標

研究テーマに関連した国内外の学術論文を要約することができる。
研究テーマに関連した国内外の学術論文を正しく解釈し、ディスカッションすることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究成果発表の技術 1
第 2 回　関連論文の紹介 1
第 3 回　関連論文に関するディスカッション 1
第 4 回　関連論文に関するディスカッション 2
第 5 回　研究成果発表の技術 2
第 6 回　関連論文の紹介 2
第 7 回　関連論文に関するディスカッション 3
第 8 回　関連論文に関するディスカッション 4
第 9 回　研究成果発表の技術 3
第 10 回　関連論文の紹介 3
第 11 回　関連論文に関するディスカッション 5
第 12 回　関連論文に関するディスカッション 6
第 13 回　論文作成方法 1
第 14 回　論文作成方法 2
第 15 回　まとめ

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

各講義にて使用する文献を事前に読んでおくこと。
ディスカッションに備えて、データ収集と分析を実施すること。
総合演習では事前課題の取り組みが大変重要となる。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	田中　進
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

生体内の生命元素の生理作用や研究方法に関する基礎的知識を学び、将来、この分野の研究立案、研究遂行を自ら推進できる素養を身につける。

到達目標

生体内の生命元素の生理作用や研究方法を説明できる。この分野の研究立案、研究遂行を推進できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　イントロダクション　―授業の進め方、到達目標、評価方法の確認―
第 2 回　遺伝子と金属イオン
第 3 回　メタロチオネイン
第 4 回　銅タンパク質の構造と生理作用
第 5 回　亜鉛フィンガータンパク質
第 6 回　活性酸素と微量元素
第 7 回　免疫と微量元素
第 8 回　がんと微量元素
第 9 回　先天性銅代謝異常症
第 10 回　アレルギーと微量元素
第 11 回　医薬品と金属元素
第 12 回　サプリメントと微量元素
第 13 回　生命元素の定量方法
第 14 回　生命元素の構造解析法
第 15 回　生命元素のこれから

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間で議論することなどで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

指定したキーワードを毎授業前に調べておく。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	渡辺　由美
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

研究テーマに関連した国内外の論文を精読し、最近の知見を得るとともに論文の学術的意義を理解する。また、研究計画に応じたデータ分析の実践力や応用力を養い、研究結果を効果的に表現する方法を修得する。

到達目標

１．先行研究の未解決な課題や問題点を理解できる。
２．研究結果を効果的な表現方法で説明できる。

講義内容と講義計画

第 1 回　関連論文の検索と収集 1
第 2 回　関連論文の検索と収集 2
第 3 回　関連論文の精読と討論 1
第 4 回　関連論文の精読と討論 2
第 5 回　関連論文の精読と討論 3
第 6 回　関連論文の精読と討論 4
第 7 回　関連論文の精読と討論 5
第 8 回　関連論文の精読と討論 6
第 9 回　既存データの分析 1
第 10 回　既存データの分析 2
第 11 回　既存データの分析 3
第 12 回　プレゼンテーションの準備 1
第 13 回　プレゼンテーションの準備 2
第 14 回　プレゼンテーションの準備 3
第 15 回　プレゼンテーション

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

教員との議論やプレゼンテーションの内容などで、理解度を評価する。

授業外学習の内容

１．授業で使用する論文を、事前に読んでおくこと。
２．討論で意見を述べることができるように準備しておくこと。
３．基本的な統計手法を復習しておくこと。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	永井　俊匡
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

栄養学分野の学術論文について批判的に議論し、自分の研究テーマの独自性を明確にする。

到達目標

・研究テーマに関連した国内外の学術論文を、批判的に議論できる。
・先行研究と比較し、自分の研究テーマの独自性を明示することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　取り上げるべき学術論文の選別
第 2 回　研究テーマに関連した学術論文（1 報目）の精読・内容紹介・議論
第 3 回　研究テーマに関連した学術論文（2 報目）の精読・内容紹介・議論
第 4 回　研究テーマに関連した学術論文（3 報目）の精読・内容紹介・議論
第 5 回　研究テーマに関連した学術論文（4 報目）の精読・内容紹介・議論
第 6 回　研究テーマに関連した学術論文（5 報目）の精読・内容紹介・議論
第 7 回　取り上げた学術論文のまとめ討議
第 8 回　自分の研究テーマとの比較検討
第 9 回　比較検討を踏まえた文献再収集
第 10 回　再収集した学術論文（1 報目）の精読・内容紹介・議論
第 11 回　再収集した学術論文（2 報目）の精読・内容紹介・議論
第 12 回　再収集した学術論文（3 報目）の精読・内容紹介・議論
第 13 回　再収集した学術論文（4 報目）の精読・内容紹介・議論
第 14 回　再収集した学術論文のまとめ討議
第 15 回　自分の研究テーマの背景・独自性を明示した文章の作成

使用教材

担当教員から別途指示する。

評価方法

レポートの提出や教員との間の議論などで、総合的に評価する。

授業外学習の内容

自ら収集、あるいは教員の指示した文献を、あらかじめ読んでおき、ゼミ形式で内容紹介できるようにレジュメを作成する。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	下川　哲昭
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

栄養生理学領域における研究法とその実際について自身の研究テーマを選び研究を遂行し研究成果につなげる。特に、
1）乳汁中のホルモンによる育児行動の解析、
2）先天性脊椎側弯症における胎児期の栄養素について、
3）細胞分化因子 EID1 の脂質代謝における抑制機能、の 3 点に焦点をあてて講義と研究を行う。

到達目標

研究の醍醐味を味わい、新たな環境でも自分で研究を遂行できる能力を確立することを目標とする。
自身の研究成果を英文への学術雑誌に投稿・掲載することを目指す。

講義内容と講義計画

第 1 回　核酸・タンパク質の抽出 1。
第 2 回　核酸・タンパク質の抽出 2。
第 3 回　核酸・タンパク質の抽出 3。
第 4 回　核酸・タンパク質の電気泳動 1。
第 5 回　核酸・タンパク質の電気泳動 2。
第 6 回　核酸・タンパク質の電気泳動 3。
第 7 回　タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 1。
第 8 回　タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 2。
第 9 回　タンパク質の免疫沈降法とウェスタンブロット法 3。
第 10 回　結果の解釈。
第 11 回　追試験 1。
第 12 回　追試験 2。
第 13 回　論文の作成とプレゼンテーションの準備 1。
第 14 回　論文の作成とプレゼンテーションの準備 2。
第 15 回　論文の作成とプレゼンテーションの準備 3。

使用教材

参考図書：リッピンコットシリーズ　イラストレイデッド・生理学（鯉淵・栗原監訳、丸善出版）。
適時資料、文献等を配布する。

評価方法

研究課題の探索、実験のデザイン、実験への熱意、データの解釈、プレゼンテーション、論文の作成等、研究への取り組み全般について総合的に評価する。

授業外学習の内容

コースの後半では論文の作成とプレゼンテーションの準備を授業外学習でも取り組む。

栄養科学総合演習Ⅱ　Seminar for Master's Thesis on Nutrition Science II

担当者	曽根　保子
時期・単位	食品栄養学専攻　2 年通年　選択　2 単位

講義目標

1. 応用栄養学にする新たな知見または課題を抽出する能力を養う。
2. 課題解決または新規の知見を目指し、研究計画の立案・実施を通して、健康へ影響を及ぼす新たなリスク管理の考え方や方法を探る力を育成する。

到達目標

1. 応用栄養学に関する課題を挙げることができる。
2. 科学論文などから自ら情報を得て、それらについて考察することができる。
3. 研究計画を作成し、調査または実験を行うことができる。
4. 1～3 を通して、健康へ影響を及ぼすリスク管理の考え方や方法自ら探ることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回　研究の立案と研究計画の作成について
第 2 回　研究の立案と研究計画の作成　1
第 3 回　研究の立案と研究計画の作成　2
第 4 回　研究計画の発表と評価　1
第 5 回　研究計画の発表と評価　2
第 6 回　予備調査・予備実験の実施 1
第 7 回　予備調査・予備実験の実施　2
第 8 回　本調査・本実験の実施　1
第 9 回　本調査・本実験の実施　2
第 10 回　本調査・本実験の実施　3
第 11 回　研究結果のまとめと分析　1
第 12 回　研究結果のまとめと分析　2
第 13 回　研究成果の発表
第 14 回　研究論文（修士論文）の作成 1
第 15 回　研究論文（修士論文）の作成 2

使用教材

適宜資料を配布する。

評価方法

課題への取り組み姿勢を 50 %、課題の内容および完成度を 50 %として評価する。

授業外学習の内容

1. 研究内容に関する情報をよく調べ、分からない専門用語・事柄を理解する。
2. 関連する資料をもとによく調べ、学んだことやそれに対する自分の考察をまとめる。

食品栄養学特別研究　Seminar for Master's Thesis on Food and Nutrition Sciences

担当者	指導教員
時期・単位	食品栄養学専攻　1・2 年通年　必修　8 単位

講義目標

食品栄養学に関する修士論文のテーマ設定、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成のすべての課程において、指導教員による適切な助言・指導を行い、修士論文を完成させる。

到達目標

１．研究の進め方を身につける。
２．研究論文の構成を理解し、修士論文を完成させる。

講義内容と講義計画

第 1 回～第 5 回　研究課題の決定
第 6 回～第 10 回　研究計画の立案
第 11 回～第 30 回　本研究の前段的遂行
第 31 回～第 35 回　中間発表会の準備・発表（2 年次）
第 36 回～第 45 回　本研究の遂行
第 46 回～第 57 回　修士論文の作成
第 58 回～第 60 回　修士論文発表会の準備・発表

使用教材

各指導教員から別途指示する。

評価方法

修士論文作成過程における研究態度、論文の完成度、審査の過程、および発表会での講演・質疑を総合的に評価する。

授業外学習の内容

研究テーマに関連した文献を出来るだけ収集し、研究論文の質を向上させる。